

(2) 神社建造物悉皆調査

ア 目的

「出雲市歴史文化基本構想」策定にあたり、出雲の歴史的な特徴を色濃く残している歴史文化遺産を綿密に調査することにより、その特色をあぶりだしていく必要がありました。その中で、出雲地域特有の神社建築様式「大社造」^{たいしゃづくり}をはじめ神社建築の特色を導き出していきたいと考え、市内全域において神社庁登録の神社を主に悉皆的な調査を実施しました。

イ 調査方法

① 一次調査

- ・調査対象：島根県神社庁に登録されている神社を中心に、計189件。
- ・調査期間：平成27年8月1日～11月30日
- ・調査方法：市内43地区から選出している出雲市文化財調査協力員により、由来や棟札等資料の有無などの調査票作成と写真撮影を行いました。

② 二次調査

- ・委託機関：奈良文化財研究所(三次調査も含む)
- ・調査期間：平成28年5月10日～7月15日
- ・調査方法：一次調査リストを元に文化財課職員とともに現地へ赴き、本殿建築形式や境内配置図、石造物等の調書の作成とともに写真撮影を行いました。対象計162件。

③ 三次調査・補足調査

- ・調査期間：平成28年8月8日～11月18日・平成29年3月8日～10日
- ・調査方法：二次調査対象物件のうち特徴的な17件を抽出し、内部調査、平面実測調査、調書作成を行いました。また、それらの写真撮影・棟札調査も実施しました。

ウ 調査の概要

① 分布状況

市内全域に満遍なく分布しますが、出雲大社、日御碕神社及び鱒淵寺のある北山が急峻な山岳地帯のためやや薄い分布となっています。また、大社造に絞って見ると、中世頃まで大きな規模であった「神門水海」辺りにはほとんど見られません。これは神社の創建が古いことを示すとともに、大社造が古くから採用された伝統的な形式であったと推察できます。

② 建築形式

二次調査対象物件のうち、大社造（切妻造妻入）^{きりつまづくり}が122件（75.3%）と大半を占め、次いで流造^{ながれづくり}30件、隅木入春日造^{すみぎいりかすがづくり}3件、入母屋造^{いりもやづくり}2件、切妻造平入が2件、

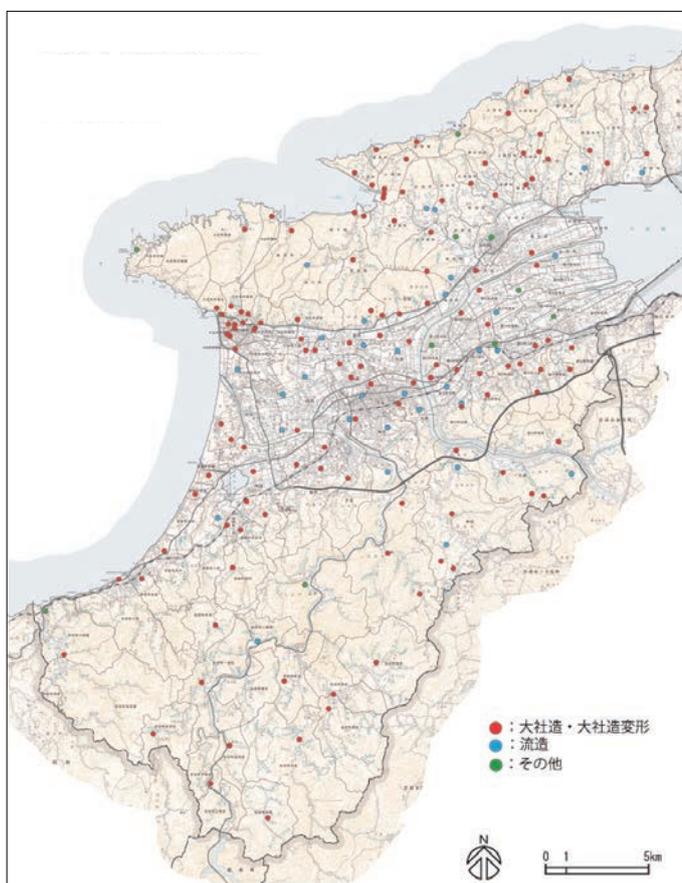


図1-25 出雲市内神社本殿の形式別分布図

その他3件となっています。

今回の調査社殿の建立年代は、17～20世紀で、多くは19世紀後半以降になります。これまでの研究により、大社造形式は5形式に分類されていましたが、今回3形式を確認しました。大社造とは、木階きざはしの屋根に当たる階隠はしかくしを主屋とは別に設けるもの(A～D形式)を指し、主屋と階隠が繋がるものや階隠がないもの(主屋の桁を前方に伸ばすもの)は大社造変形(E～F形式)と捉えることとします。このうち、本殿内部に心柱しんぼしらを有するA～C形式の本殿は、出雲大社本殿・命主社・佐香神社・宇賀神社など出雲市内で9件あります。

またF～H形式は、出雲大社の境内社・境外社には見られないものであり、主屋と階隠を構造的に連結させるG・H形式は近代以降に多いことが分かりました。

一方、全国で最もよく見られる流造のうち、正面が一間で背面・側面を二間として正方形の平面を持つ本殿が複数存在し、大社造の影響を受けていると考えられます。また、隅木入春日造の宇美神社も背面を二間としており大社造の影響を少なからず受けていると考えられます。

このように、出雲の大社造は多様性があるものの古い形式で、他の形式へも影響を与えるほど非常に濃密に展開していることが明らかとなりました。出雲大社を中心とした出雲の特異性を如実に表わしているものと理解できます。

エ 今後の計画

① 地域分布・時代性の検討

今回行った形式分類を元に、さらに深化した分析を進めていく予定です。ポイントは、地域ごとの分布状況や建築年代などと交差させて考察を進めていくこととします。

① 成果報告

今回の調査成果は、平成29年度に調査報告書として発行し、広く研究等への視座としていく計画です。また、成果を簡単にまとめたパンフレット等も作成し、出雲の神社を巡るための素材集にしたいと考えています。

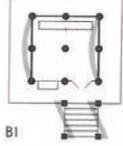
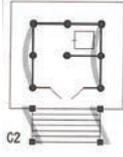
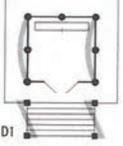
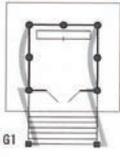
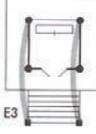
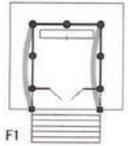
	桁行二間、梁間二間	桁行二間、梁間二間、正面一間	桁行一間、梁間一間
階隠 (別棟・独立)	 A  B1	 C2	 凡例 主屋の桁 階隠の桁
		 D1	
階隠 (別棟・主屋と連続)		 G1  H1	 G2  H3
	階隠なし	 E1  E3	
(幣殿が木階覆う) 階隠なし		 F1	 F3

図1-26 大社造本殿の形式分類

(3) 寺院所有の美術工芸品調査

ア 目的

市内の寺社仏閣の美術工芸品は、人の目に触れることも少なくその把握が難しい面があります。出雲大社や鱒淵寺を内包している出雲市において、関連するものが少なからず眠っている可能性が高いと推察されることから、その関係性などから出雲の特色を見いだせないかと考え、本調査を実施しました。

イ 調査方法

- ①市内にあるすべての寺院に所蔵されている美術工芸品のうち、古いもの、いわれのあるものについての調査票(計 236 件)を送ったところ、3割強の寺院から回答がありました。
- ②このうち、有効な情報と思われるものを抽出し、実見及び聞き取り調査を行うとともに、写真撮影を行いました。
- ③情報を写真データとともに、各専門の委員へ送り、その概要及び文化財としての価値の有無等について報告を集めました。
- ④きわめて重要と思われるものについては、専門の委員等と改めて寺院へ出かけ、詳細な調査を行いました。

ウ 調査概要

数も多いことから、実際に調査に出かけたものはそれほど多くなく、今後も地道に進めていく必要がありますが、これまでの調査で具体となったもののなかから代表的なものを以下に記載します。

「極楽寺」(出雲市平田町)

浄土宗清心山極楽寺。寺伝によれば、永禄5年(1562)神門寺の69世心興玄休上人を開山とし、同6年小村家11代喜右衛門が本願主となり、創建されたとされます。万治2年(1659)の平田町の大火災により類焼しましたが、貞享元年(1684)現在地である儀満家所有地に再建されました。

【彫刻】(古代出雲歴史博物館 的野克之氏)

木造阿弥陀如来立像 1 軀

像高 77 cm、寄木造、彩色漆箔、玉眼。

大掛かりな補修が施されていますが、その補修後の破損も著しい状態にあります。左肩及び左裾付近に大きな孔が開き、胎内が覗けます。両袖の衣文が硬く、全て後補の可能性がります。

端正な顔は、制作期を鎌倉時代(13世紀頃)としてもあまり違和感はありません。しかし、後補の彩色に厚く覆われているため、本来の衣文が見えないことから鎌倉時代の作か判然としません。江戸時代に鎌倉時代風の像が数多く制作されており、注意を要しますが、今のところ鎌倉時代を完全に否定する要素は確認できません。



木造阿弥陀如来立像

「靈山寺」(出雲市大社町遙堪)

天台宗 鰐淵寺末。古くは莊嚴寺(遙堪にある曹洞宗寺院。文和3年(1354)開山)の末寺であったと伝わっています。その後、正徳年中(1711~16)に頼山僧都が延暦寺の末寺として中興し、天台寺院となりました。明治に入り、盛衰を繰り返しましたが、改めて鰐淵寺や地元の方々の尽力により、再興されました。平成21年頃から安来市清水寺が管理し、現在に至っています。



木造阿弥陀如来立像

【彫刻】(古代出雲歴史博物館 的野克之氏)

木造阿弥陀如来立像 1 軀

像高約80cm、寄木造、もと彩色金箔、玉眼。

13世紀、鎌倉時代に制作された可能性を持っています。今後、詳細な調査を実施し、その価値付けについて明確にしていく予定です。また、保護対策に向けた取り組みを進めていきます。

【工芸品】(奈良国立博物館名誉館員 梶谷亮治氏)

五鈷鈴

室町時代までさかのぼる可能性がありましたが、詳細な調査の結果、江戸時代の制作であることが明らかとなりました。



五鈷鈴

「日蔵寺」(出雲市小山町)

臨済宗 妙心寺派。当初は真言宗。暦応3年(1338)三木四郎左エ門が神門郡小山村に移住し、貞和2年(1346)本堂を創建したと伝わっています。

【彫刻】(古代出雲歴史博物館 的野克之氏・濱田恒志氏)

大日如来坐像 1 軀・虚空蔵菩薩坐像 1 軀・聖観音菩薩立像 1 軀

一木造、内割りなしと考えられます。いずれも平安時代の制作の可能性があり、今後詳細な調査を行う必要があります。

エ 今後の計画

① 当面の調査の方向性

まだ調査しなければならない物件が多くあることから、今後も地道に調査を継続し、全市的に悉皆調査を行うことが重要です。方向性としては、鰐淵寺に関連する寺院を中心に進めていくとともに、他寺院へも積極的に呼びかけ、さらなる調査を推進していきます。

② 保護対策

文化財として相応の価値を有する美術工芸品等があった場合には、専門家の詳細調査を経て、文化財指定や登録文化財などの保護対策を早急に進めていきます。

(4) 旧家所有文書調査

ア 調査の概要

現在、市内の古文書や典籍類については、どこにどのようなものが残っているのか把握できていない状況です。そのため、次のような計画で旧家所有文書調査に着手しました。

①調査方法：市内全43地区に各1名ずつ任命している文化財調査協力員に依頼し、各地区内で「古文書が残っていそうな家」について情報を集める。

②調査時期：平成27年7月1日から

③調査項目：所有者名・住所・電話番号・資料の概要

※文化財調査協力員が対象の家に確認を取る必要はなく、分かる範囲で調査票にて情報の提供を求めました。

イ 調査の成果

平成27年7月1日以降、随時受け付けていた情報提供について、平成28年8月22日に締め切って成果をまとめたところ、次の表のとおり市内の古文書が残っていそうな家を抽出することができました。

表1-8 古文書が残っていそうな家等一覧

地区	軒数	地区	軒数
今市	5	北浜	2
大津	5	佐香	1
高浜	3	須佐	1
川跡	1	窪田	1
鳶巣	4	湖陵	1
稗原	5	荒木	4
朝山	2	鵜鷺	2
神門	2	荘原	1
平田	2	伊波野	3
鱒淵	7	直江	2
東	1	出東	3
		計	58

※43地区中回答のあった33地区の成果。

※既に知られた文書を所蔵している家は除く。

※調査票に家以外の社寺等が明記されていた場合も数に含めた。

ウ 既出文書の把握と今後の調査

一方、旧家所有文書調査と並行して、現在の出雲市域における地域誌や報告書、これまで出雲市文化財課が集積してきたデータ等を元に、すでに存在が明らかになっている文書(以下、既出文書)の一覧である「市内の古文書等一覧」(巻末参照)の作成を開始しました。

その結果、平成28年5月6日現在、少なくとも次の点数の既出文書が確認されていたことが分かりました。

今回の旧家所有文書調査で抽出した「古文書が残っていそうな家」については、実際に古文書が残っていた場合、これまで知られていなかった新出文書ということになります。今後は、各家について古文書の有無確認を行い、古文書があると判明した際は概要調査の協力を依頼し、承諾が得られた家から随時調査を実施していく予定です。

エ 古文書調査部会の開催

出雲市歴史文化基本構想調査運営委員会では、家の建て替えなどに伴う古文書の消失が喫緊の課題であるという意見が相次いで出されていました。これを受け、平成28年10月26日に古文書調査部会を開催し、古文書に詳しい委員から今後の調査研究のあり方についてご意見をいただきました。

表 1-9 出雲市における古文書等の把握状況

地域	件数	主な古文書等の名称
出雲地域	157	・高見家文書 ・春日家文書 ・布野家文書 など
平田地域	125	・木佐家文書 ・和泉家文書 ・簾木佐家文書 など
佐田地域	34	・石橋家文書 ・田部家文書 ・須佐家文書 など
多伎地域	51	・本願寺文書 ・櫻井家文書 ・華蔵寺文書 など
湖陵地域	40	・糸賀家文書 ・馬庭家文書 ・湖陵町役場所蔵文書 など
大社地域	326	・藤間家文書 ・千家家文書 ・北島家文書 ・佐草家文書 ・日御碕神社文書 など
斐川地域	67	・佐藤嘉紀家文書 ・永見家文書 ・三代家文書 など
その他	40	・広島大学所蔵文書 ・野津隆氏所蔵資料(仮題) など
合計	840	

※同じ家所蔵の文書でも、引用先の書籍が異なる場合などはそれぞれカウントしている。

委員からは「古文書が残っていそうな家の調査と並行して、既存文書の調査研究を直ちに進める必要がある」、「文書調査を進めるにあたっては、将来『出雲市史』の作成が計画された場合にその端緒となり得る質の調査でなければならない」などの意見が出されました。

今後、これらの意見に基づき古文書の調査研究を進めていく必要があります。

(5) 記紀伝承地・風土記登場地の調査

ア 目的

国内最古の歴史書『古事記』『日本書紀』（記紀）、奈良時代の出雲国を詳細に描写した地誌『出雲国風土記』（風土記）に記された伝承地・登場地は、出雲市の内外を問わず今も語り継がれ、多くがその姿を留めています。とりわけ『風土記』に関しては2033年に編纂1300年の節目を控えており、さらなる普及啓発が求められます。

そこで本調査では、記紀・風土記の伝承地・登場地の現状を把握し、観光資源としての活用策を探るとともに、比定地が定まっていない登場地を発掘調査対象地として抽出し、今後の調査計画を立てるための布石とすることを目的とします。

イ 方法

本調査は、以下の流れで実施しました。

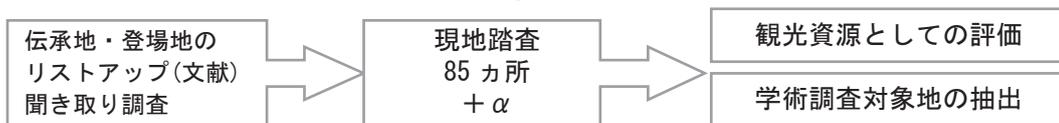


図1-27 調査方法フロー

ウ 調査の成果(伝承地・登場地の現状)

① 『記紀』伝承地

- ・「神話の舞台」として記載。ピンポイントの箇所を指すものは少ない

② 『風土記』登場地

- ・各郡郷里(+役所)／寺院・神社／山野・河川・池・沿岸部／^{かよひじ}通道 の順に記載。
- ・役所・寺院・神社…推定地。発掘調査でほぼ確定しているのは「神門郡家」のみ。(神社は社殿建造物調査を行うため対象から除外した)
- ・通道…^{まにしのみち}駅路「正西道」と^{おうほくどう}伝路「枉北道」。「正西道」は発掘調査で発見されており、部分的にルートが確定している。その他は現地地形等からの推定ルートのみ。
- ・山野・河川・池・沿岸部…山、大河、沿岸部地形は往時の姿を留めていると考えられる。小河川、池は後世の改変が大きく、原風景を留めていない。

③伝承地・登場地の普及策

- ・一部に島根県設置の標柱が立つ。その他は書籍等の記載に頼るほかない。

エ 観光資源としての活用策の提案

① 観光資源のランク分け(次頁図・表、詳細は付録)

踏査を実施した『風土記』登場地89カ所を、観光資源としての活用可能性を基に5段階にランク付け ⇒ 登場地単体・複数での活用策を想定可能

② 活用策

- ・ソフト面：一般向け「風土記探訪マップ」等の作成→マップを活用したツアー等の企画
- ・ハード面：登場地が見渡せるビューポイントに解説看板を設置

※ビューポイント…去豆の折絶(25)、朝山六山(65~70)、かんなびやま(1、28)等からの眺望

オ 学術調査対象地の抽出

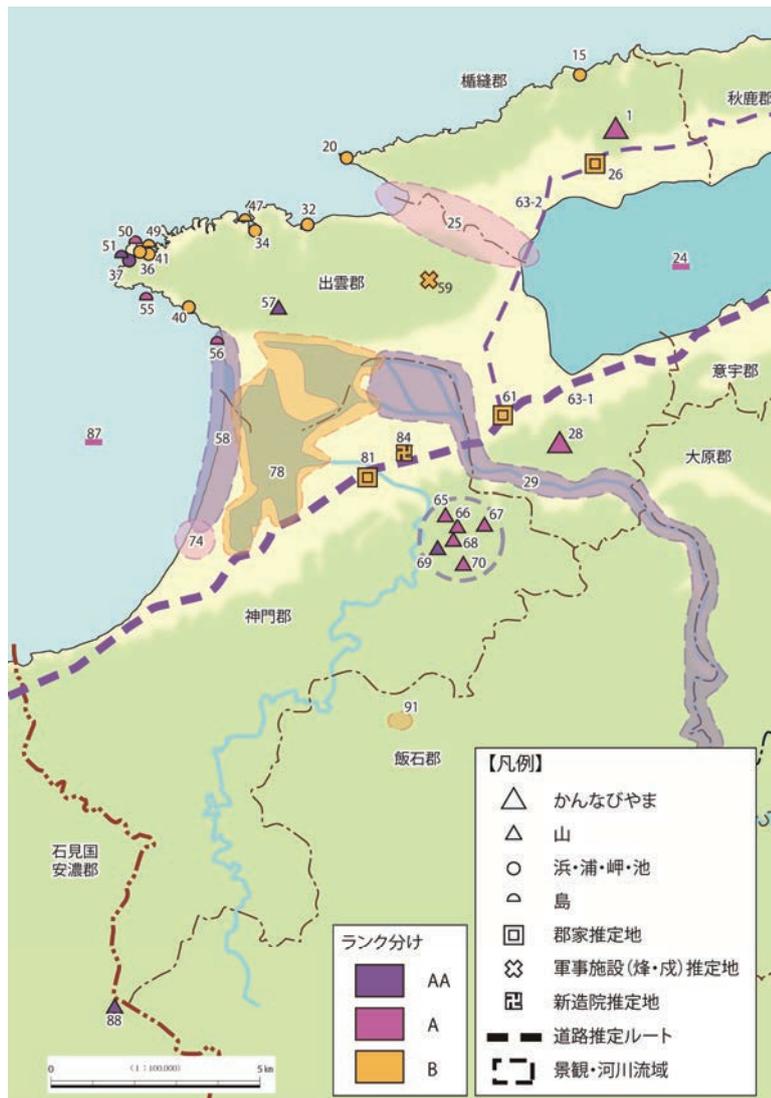
- ・調査の目的…場所や内容が不確定の登場地について、発掘調査を通してその場所や性格を

明らかにする

- 抽出する対象地…既往の研究で推定地がある程度固まっているが、考古学的証拠を欠くもの (◎郡家関連、新造院、神社、軍事施設、道路、○奈良時代の生活遺跡)

カ 今後の課題

以上の調査成果をもとに導き出した観光活用策および学術調査対象について、前者は短～中期、後者は中～長期的計画を立てて事業を実施し、伝承地・登場地の普及啓発と研究の促進を図ります。



No.	登場地名	郡	比定地
ランク:AA			
29	出雲大川	出雲	斐伊川
37	御前濱	出雲	日御碕神社前の浜
51	御殿嶋	出雲	経島
57	支豆支の御埼 出雲御崎山	出雲	北山の山塊
58	園・園の長浜	出雲 神門	大社～湖陵の砂丘地
63-1	山陰道(正西道)推定ルート	出雲 神門	宍道湖南岸
63-2	山陰道(枉北道)推定ルート	橋縫 出雲	宍道湖北岸
69	宇比多伎山	神門	朝山神社のある山
88	佐比賣山	飯石	三瓶山
ランク:A			
1	橋縫郡 神名樋山	橋縫	大船山
24	入海	橋縫 出雲	宍道湖
25	去豆の折絶	橋縫	平田～北浜の地溝帯
28	出雲郡 神名火山	出雲	仏経山
50	子負嶋	出雲	宇龍の岩島
55	黒嶋	出雲	礫島
56	門石嶋	出雲	弁天島か
65	稲積山	神門	杉尾神社のある山
66	稲山	神門	岩根寺のある山
67	梓山	神門	稲山・陰山東方の岩山
68	陰山	神門	岩根寺対岸の山
70	冠山	神門	陰山・梓山南方の山
74	美久我林	神門	大社～湖陵の砂丘南端
87	大海	出雲 神門	日本海
ランク:B			
15	己自都濱	橋縫	小伊津の海岸
20	許豆埼	橋縫	十六島町の西端
26	橋縫郡家 推定地	橋縫	多久谷町灘古殿あたり
32	井呑濱	出雲	猪目町の海岸
34	鷺濱	出雲	鷺浦の海岸
36	大橋濱	出雲	おわし浜
40	二俣濱	出雲	二俣港付近の浜
41	宇禮保浦	出雲	宇龍港
47	鰐嶋	出雲	鷺浦の柏島
49	山崎(嶋)	出雲	宇龍の権現島
59	多夫志烽	出雲	旅伏山の山頂付近
61	出雲郡家 推定地	出雲	斐川町出西後谷あたり
78	神門水海	神門	神西湖周辺
84	朝山郷新造院 推定地	神門	塩田町の神門寺か
91	大須佐田・小須佐田	飯石	佐田町朝原

図 1-28 観光資源として活用しうる登場地 (A A～B ランクの登場地)

表 1-10 学術調査対象地一覧 (既往のものを含む)

	名称	場所	調査既往歴		名称	場所	調査既往歴
郡家	神門郡家	古志本郷遺跡	政庁の一部発掘調査	道路	正西道		推定ルート上で一部発掘調査
	出雲郡家	小野遺跡・稲城遺跡か	発掘調査あり未発見		枉北道	宍道湖北岸～西岸	未調査
		後谷遺跡	正倉の一部発掘調査		新造院	橋縫郡沼田郷新造院	西西郷廢寺か。測量調査
軍事施設	橋縫郡家	多久谷町灘古殿付近の平地	未調査	出雲郡河内郷新造院		未調査	
	多夫志烽	旅伏山	未調査	神門郡朝山郷新造院		現在の神門寺か。発掘調査	
	土掠烽	大袋山	市指定史跡	神門郡古志郷新造院		未調査	
	馬見烽	弥山か浜山丘陵	候補2箇所。未調査	神社	イヌ社?ミタ社?	青木遺跡(東林木町)	発掘調査
	宅伎成	多伎町口儀付近	未調査		ミイ社?	杉沢皿遺跡(斐川町)	発掘調査
駅家	狭結驛	神門郡家と同所。古志本郷遺跡?	未調査				
	多伎驛	多伎町久村付近	未調査				

(6) 築地松実態調査

ア 目的

出雲平野における人々の生活・生業・風土により形成された築地松について、散居景観として良好なエリアを選定し、築地も含めた実態を把握する調査を行いました。

イ 調査方法

築地松実態調査は、平成24年度に築地松景観保全対策推進協議会が実施した「出雲平野における築地松実態調査」の分析から、築地松所有者の内10本以上の松を有する所有者が多い「出東地区」「久木地区」「灘分地区」を選定地区とし、「高い木」が16本以上あると把握されている家、また調査員による実地調査により、体裁をよく残している家(松の本数は問わない)、松以外の樹木で築地が構成されている家、土居が残っている家を対象としました。



写真：築地松のある家(出東地域)

① 調査方法

文化財調査協力員による訪問調査(現地調査)

② 調査期間

平成27年11月～平成28年3月

③ 調査の項目

所在地、所有者、築地松の形態、植生、生垣の有無、築地松の状況、築地松に対する所有者の思い、築地松に関する伝承等

ウ 調査結果

当初、調査対象としてリストアップした家は128件でしたが、協力員の現地確認により、141件を調査しました。

表1-11 築地松実態調査結果一覧

①調査件数【表1】 (単位：件)

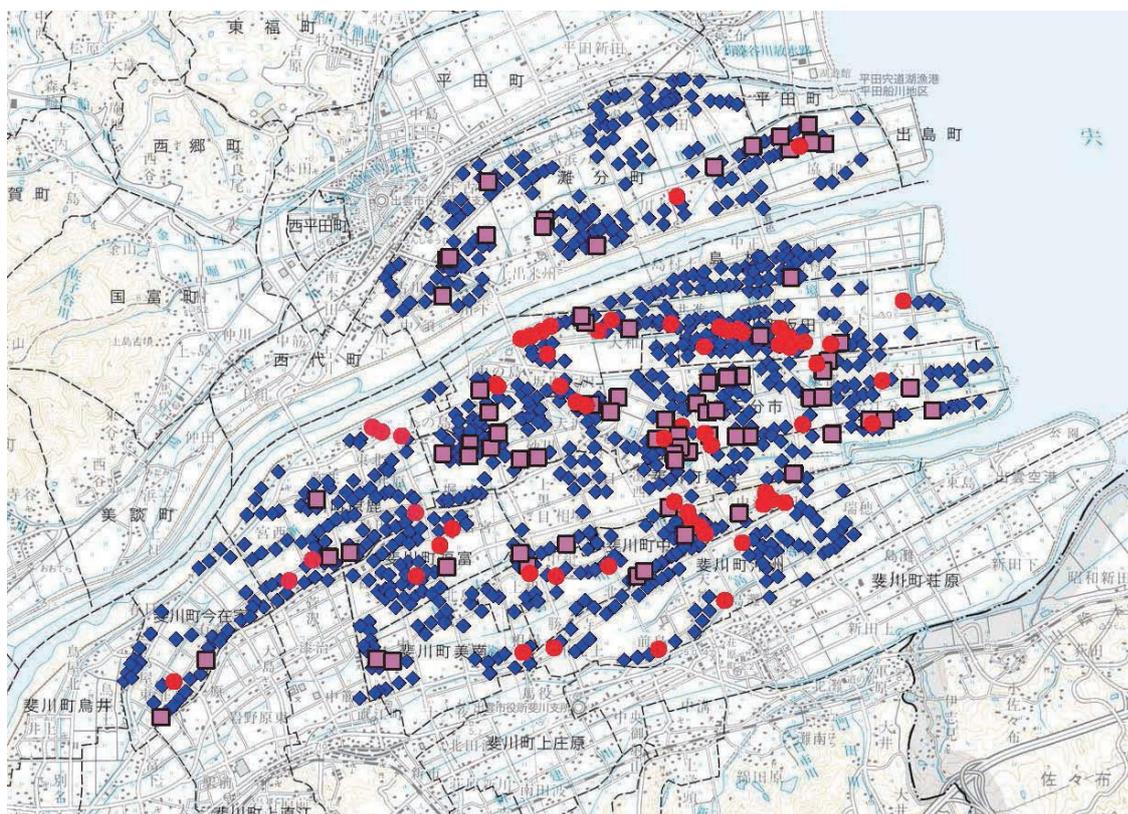
合計	合計														
	出東地区 計							久木地区 計				灘分地区 計			
地区名															
町内名															
調査件数	141	103	17	4	10	41	31	20	3	4	10	3	18	17	1
			中洲	沖洲	黒目	三分市	坂田	今在家	福富	原鹿	美南		灘分	島村	

②築地松の形態等【表2】 (単位：件)

	形態				樹齢(無回答、不明は除く)		
	1面	2面	3面	計	～49年	50～99年	100年以上
出東地区	50	51	2	103	27	21	38
久木地区	12	8	0	20	4	6	8
灘分地区	2	16	0	18	2	3	6
計	64	75	2	141			

③状態(複数回答)【表3】 (単位：件)

	①定期的に陰手刈りがされていて、整えられている	②陰手刈りをしてから年数が経っているが松はそろっている	③一部欠けたり、補植した木が低い状態になっている	④主に松以外の樹木で構成されている
出東地区	84	4	33	1
久木地区	17	2	0	0
灘分地区	10	8	0	0
計	111	14	33	1



● 1面築地 ■ 2面以上築地 ◆ 築地松景観保全対策推進協議会で把握している築地松

図 1-29 築地松実態調査場所

エ 今後の検討内容について

出雲市では、築地松の景観保全のため築地松景観保全対策推進協議会を設置し、築地松所有の有無にかかわらず各地域の協力者で協定を締結し、景観保全に取り組んでいます。

表 1-12 各地域の築地松保有件数

	築地松景観保全対策推進協議会※		文化財課	割合
	協議会が把握している 所有件数 A	地域で保全にかかる協定を締結している件数	今回調査件数 B	
出東地区	505件	38協定	103件	20.40%
久木地区	209件	17協定	20件	9.60%
灘分地区	229件	13協定	18件	7.90%
計	943件	68協定	141件	15.00%

※築地松景観保全対策推進協議会で把握している築地松所有件数（H28年7月現在）

築地松の景観保全は、所有者及び地域での取り組みが必要となります。今回調査した場所は、ほぼ全件を築地松景観保全対策推進協議会が把握しています。調査では特に、出東地域において樹齢が100年を超える松も多く存在し、良好な状態を保つ松の割合が高いことが判明しました。

各地域で所有者の築地松に対する思いも把握できたため、文化財指定も含めた築地松の保存活用方法について検討します。

(7) 戦前の民家に関する調査

ア 目的

戦前(第二次世界大戦終結以前)に建てられた民家については、限られた地域(大社町杵築、平田町「木綿街道」など)で調査が実施されてきましたが、全体を見渡す調査がなく、全容が不透明でした。そこで、市内に残る江戸～昭和初期の民家を対象に、「出雲らしさ」や地域性等の特徴を把握し、状況を整理するとともに、指定文化財・登録文化財候補物件の抽出を目的として悉皆調査を実施しました。

イ 方法

1次調査：文化財調査協力員による地域別調査(訪問調査)

2次調査：文化財課職員・一級建築士による詳細訪問調査

調査内容：聞き取り(建築年代、沿革、現在の利用状況等)、観察・写真(外観、表座敷)

ウ 地域的特徴

① 古い町並みを残す地域

今市・大津・平田(町家)、大社(社家と町家)、鶴鷺(漁村)、遙堪・高浜(北山沿いの大型農家)

② 屋敷と屋敷構えの特徴

・家屋の配置

町家…通りに面して切妻平入の民家が並び、通り沿いに格子戸、奥に中庭を設けます。

農家…切妻平入や入母屋の大型家屋の東に離れ、北西隅に土蔵、南西に庭園を設け、まれに土蔵の南に奥座敷を設けます。北面・西面に築地、南面には生垣・石垣・門、東面に生垣・石垣を置く屋敷配置が典型的です。

漁村…港から伸びる細い小道沿いに町家と同じ配置の民家が並びます。

・屋根

赤瓦葺きは市内西部、黒瓦葺きは市内東部に偏ります。左棧瓦(大津瓦、秋鹿瓦)、明治時代の石州瓦(来待石釉薬)は各地に点在します。茅葺きの民家は市内南部～西北部にかけて50件程度が点在し、特に斐川地域の平野部、平田地域の平野部～谷合にかけて密集していることが分かりました。

また、出雲に多いとされる「反り棟」は、茅葺き・トタン葺きの家屋、入母屋造瓦葺きの家屋に集中して見られます。また、市内のほぼ全域で、棟とともに生垣、石垣の端部が反る様子が確認でき、出雲～斐川・平田地域の平野部に集中する傾向が見えてきました。

・門と庭園

門には、屋敷入口に付く表門と、玄関前と前庭を仕切る中門があります。中門を持つ場合、ほぼ確実にいわゆる「出雲流庭園」と呼ばれる独特の庭園が設けられます。

表門と中門、庭園を持つ家屋は、広い敷地が確保できる平野部に加え、山を借景に見立てて庭園を作出できる北山沿いの地域に多く分布します。聞き取りによると、かつて地主、庄屋、豪農など、地位や財を持った家が大半であり、門と庭園は家の格式を意識して整えられたと推測されます。なお、このうち表門を持たずに中門と庭園を設ける家屋は3割あり、表門より庭園に重きを置いていることが分かります。

イ その他の特徴

・湧水の利用

北山山麓では、山から湧水を引き、庭園の池やため池として利用しています。

・ 欄間の襖絵

伊野地区の座敷の特徴です。前座敷側に樹木、表座敷側に山水の襖絵を配置する家が集中しています。

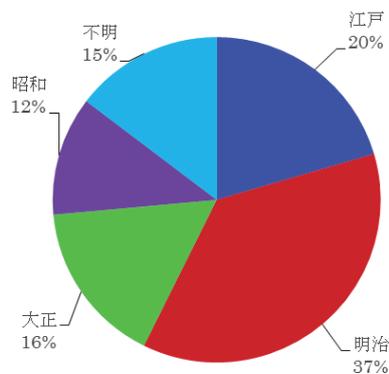
・ 土蔵

伊野地区周辺では、漆喰を塗らない荒壁の土蔵が目立ちます。また佐田地域では縁桁を外壁の外に出し、雨・雪に対する耐久性を強化するほか、独自のコテ絵や、窓枠の装飾が見られます。

エ 今後の課題

戦前の民家の保護活用を進めるため、以下の3点に重点を置きます。

- ・ 国登録有形文化財、市指定文化財候補の抽出
- ・ 存続の危機にある茅葺民家の現状把握、後継者育成(島根大学等との連携)
- ・ 市民への啓発



建築時期	件数
江戸	102
明治	184
大正	81
昭和	59
不明/調査中	73

図 1-30 調査物件の建築時期 (n=499)

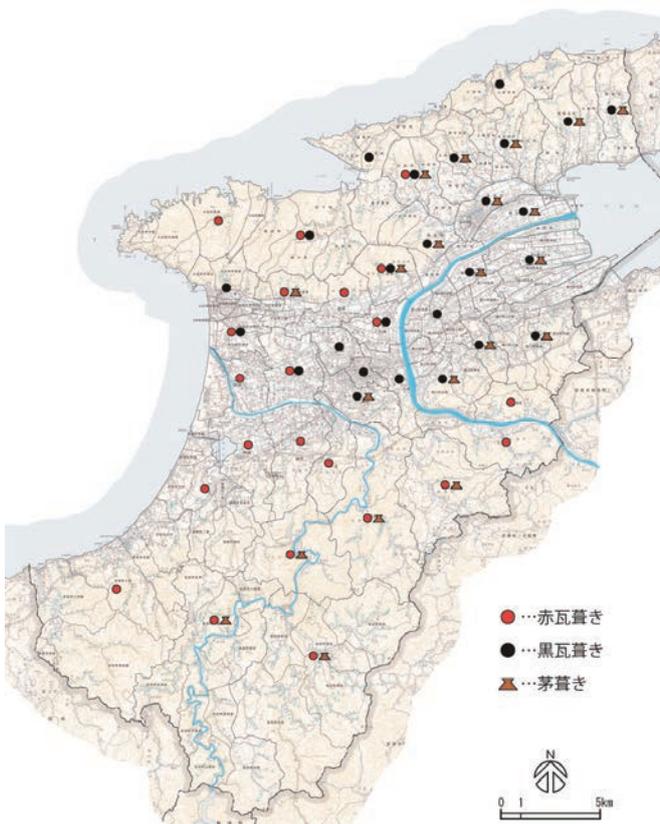


図 1-31 各地区で見られる屋根仕上げの傾向

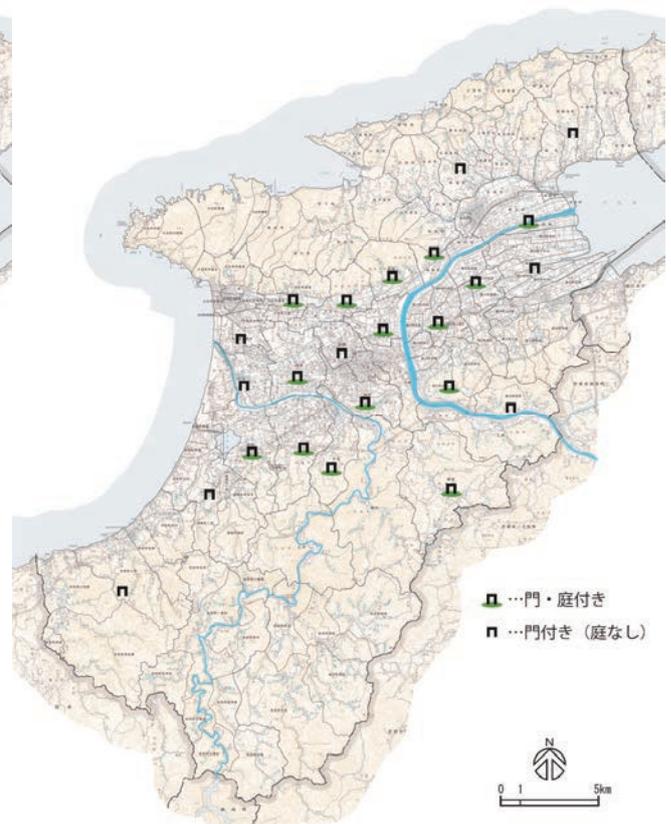


図 1-32 門と庭を持つ家屋の分布傾向

(8) 無形民俗文化財の調査

ア 調査概要

出雲市内の祭事等で行われる伝統芸能の実態把握調査のため、市内 43 地域(コミュニティセンター単位)の文化財調査協力員による現地聞き取り調査を実施し、合計 663 件を確認しました。(下表のとおり)

表 1-13 平成 23~25 年度市内伝統芸能保存団体支援活性化事業による伝統芸能調査

調査を行った伝統芸能等を保存伝承する団体数(延数) 一覧表

地域	地区名	報告団体数	祭り数	調査を行った伝統芸能等を保存伝承する団体数(延数)																																		
				神楽・神楽舞	獅子舞	奉納舞	吉兆	シヤギリ	伴内・番内	頭練等行列型	神事花	神輿	山車	舟(船)渡御	神謡	唄	見立	巫を作り記る神事	武芸奉納	所作のある神事	とんどさん	神事のみ	盆踊り	精霊流し	所作のある仏事	仏事のみ	太鼓	茶道	書道	唱歌	民謡	舞踊	芸能	管弦楽器	その他	地域おこし	念仏踊り	小唄
出雲	今市	13	23	21	1						2	3						1		2	1		1	1	1	1									5			
	大津	3	2	4	1	1					1	1																										
	塩冶	19	19	26	1							2	1					1		6	4	1			3			2						4	1			
	古志	16	15	16								1								10		1			2	1									1			
	高松	6	5	9	1	2															2																	
	四條	10	9	10	1																4	1			1				1									
	高浜	27	28	37	9	4					3	4								10	5			2														
	川跡	2	1	2	1																																	
	高巣	22	17	26	1								2						2		1	2	2		6				1	2	1	2			4			
	上津	6	8	9	2	1													2		1	1	1					1							1			
	神原	18	18	19	3	2					1	1								3	7	1													1			
	朝山	3	3	3	3																																	
	乙立	10	18	18	1	1						1								7	5			2														
	神門	44	50	49	1						1	1								34	5	2		4														
	神西	74	67	83	2	5						3								48	9	2		7										4	2	1		
	長浜	5	6	8	2	1																																
計	278	289	339	30	17	0	0	1	1	8	5	20	1	0	0	2	0	3	0	2	120	46	14	0	1	26	4	1	5	0	2	3	1	2	8	15	0	1
平田	平田	6	7	7	1						1												1													1		
	瀬分		0	0																																		
	国富	6	4	7	1	2					1	2	1																									
	西田	6	6	6	1	5																																
	鵜淵	10	13	17	2	3						3												3													1	
	久多美	4	3	7	3	3																																
	檀山	6	4	10		4	1				2	1	2																									
	東	9	9	11		1																															1	
	北浜	11	10	13	2	3																																
	佐香	9	15	15	2						1	1	2							2	6																	
伊野	2	2	2	2																																		
計	69	73	95	14	21	1	0	0	3	3	8	3	1	0	0	2	1	1	1	1	4	15	1	0	0	5	2	1	1	1	0	0	1	0	1	3	0	0
佐田	須佐	5	7	5	2																																	
	窪田	35	24	39	9	3					1	1								10	3	2			1												1	1
計	40	31	44	11	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	10	3	2	0	0	0	1	0	0	0	3	5	0	1	1	1	1	0		
多伎湖陵	多伎	9	9	11	4																																	
	湖陵	20	25	34	6						3	5	3							1	1	8	4		1	2												
大社	大社	5	4	5	2		1	1																														
	荒木	15	16	18	1	1	3																															
	逢坂	40	45	43		1														7																		
	日御崎	16	30	29				1	1			1								2	2	9	1	1	7													
	鶴鷺	4	6	6		1	1																															
計	80	101	101	3	1	2	4	2	2	0	1	3	0	1	1	2	0	11	0	2	27	20	5	1	3	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
斐川	荘原	8	9	8	1	6																																
	出西	9	7	9	2	6																																
	阿宮	4	1	4	2	2																																
	伊波野	7	7	7	6							1																										
	直江	4	3	4	3																																	
	久木	4	3	4	3																																	
計	39	32	39	7	26	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計	535	560	663	75	68	3	4	3	6	15	22	30	2	2	1	7	1	15	2	7	169	86	29	1	5	43	8	2	6	1	5	8	2	3	11	19	1	

(出雲市文化スポーツ課実施)

イ 詳細調査

この調査に基づいて文化財課が抽出した下表の 10 団体について、平成 25 年度から平成 28 年度にかけて文化財課職員が詳細調査を実施しました。

表 1-14 無形民俗文化財詳細調査対象一覧

NO	地域	地区	名称	団体名	祭事名	調査日
1	出雲	稗原	宇那手神楽	宇那手神楽保存会	宇那手神楽発表会	平成28年10月9日(日)
2	平田	唐川	唐川神楽	唐川自治会	韓竈神社大祭	平成25年11月2日(土)
3	平田	野石谷	野石谷神楽	野石谷伝統芸能保存会	能呂志神社例大祭	平成25年11月3日(日)
4	平田	伊野	伊野神楽	伊野神楽保存会	松尾神社例祭	平成27年10月14日(水)
5	佐田	朝原	朝原神楽	朝原笙友会	宝坂神社の例大祭	平成26年10月5日(日)
6	佐田	大呂	西山中田植えばやし	西山中田植えばやし保存会	出雲大社大祭礼	平成27年5月14日(木)
7	多伎	久村	久村神楽	久村伝統文化保存会	國村神社例大祭	平成25年10月19日(土)
8	多伎	多岐	多岐神楽	多岐いきいき会	多岐神社例祭	平成26年10月11日(土)
9	多伎	小田	小田神楽	小田神楽保存会		

ウ 芸能・祭事の特徴

① 神楽・神楽舞

市内全体で 75 件と個別芸能としては「とんどさん」の 169 件に次いで多く、市内全域にほぼ満遍なく分布しています。出雲神楽は松江市鹿島町の佐太神社から伝わる「^{きだしんのう}佐陀神能」、「^{おくいし}奥飯石・三瓶神楽」、「里神楽」の三つに大きく分類されます。図 1-33 の神楽がどれに分類しうるかは更なる詳細調査が必要ですが、古文書等の史料とともに、地理的観点から神楽の伝播がどのように行われたのかを分析する一つの手段となります。

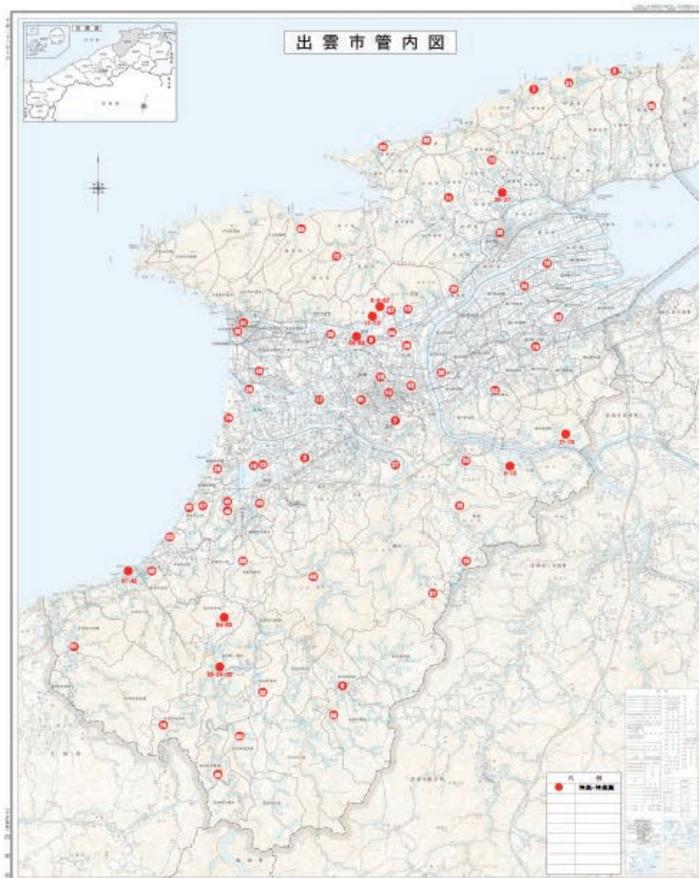


図 1-33 市内神楽分布図

② 獅子舞

市内全体で 68 件と多く残されていますが、地域別にみると平田地域 21 件、斐川地域 26 件と出雲市東部地域が約 70%を占めています。

市内の獅子舞は、県指定文化財である三谷神社投獅子舞に代表される出雲特有の「投げ獅子舞」と、伊勢神宮信仰として諸国を巡って広められた伊勢流獅子舞とに大きく分けられます。斐川地域の一部にも投げ獅子舞も残されていますが、分析には詳細調査が必要となります。

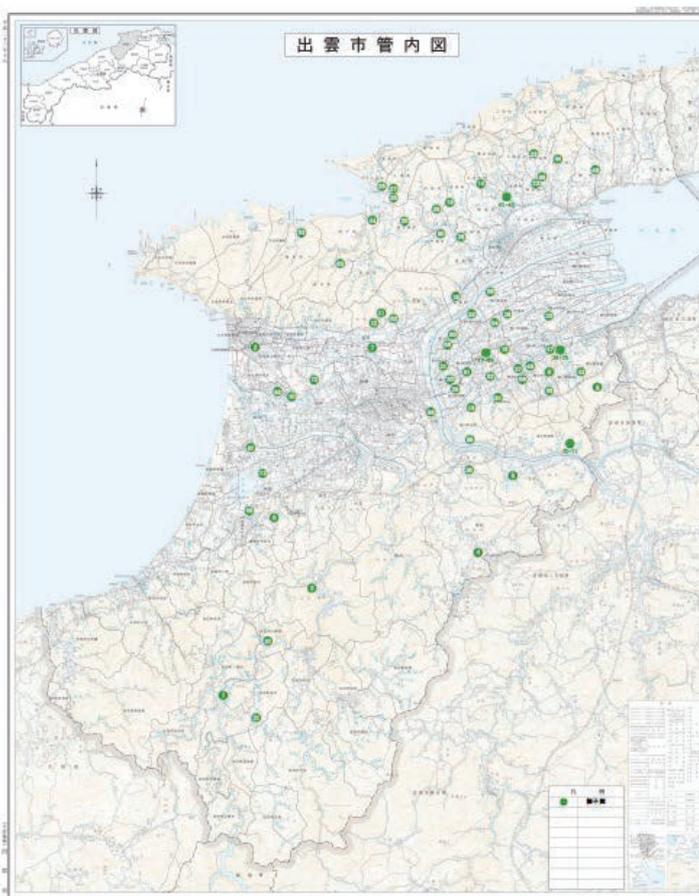


図 1-34 市内獅子舞分布図

③ 神事花^{じんじばな}（華）

市内全体で22件と多くはありませんが、特筆すべきは神事花が行われる祭事にあり、約85%が神事花だけでなく、別の芸能を併せて行っています。内訳としては獅子舞・獅子による頭練^{とうね}り等行列が約82%と突出しており、神事花と獅子舞の関連性が高いものと考えられます。

神事花の「花」の形態も地域によって違いがあり、今後比較検討する材料となります。

④ その他

個別芸能としては「とんどさん」が169件と突出していますが、出雲地域が120件と71%を占めており、市内全域で広く行われてはいません。

また、盆踊り(29件)は大社町宇龍以西の海岸部近くに多く伝わっています。

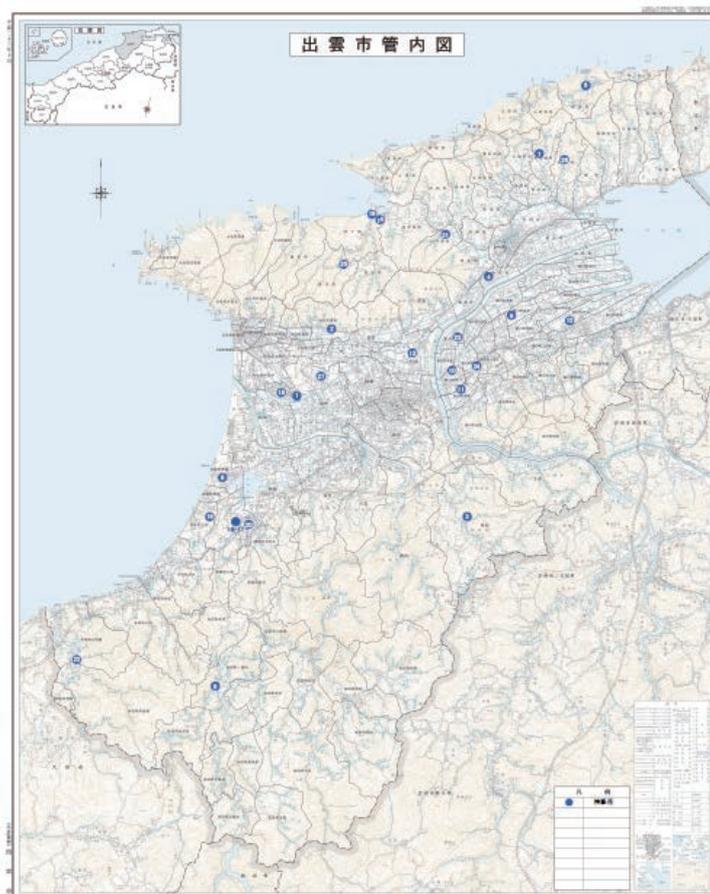


図 1-35 市内神事花分布図

第3節 市民意識からみた歴史文化の現状

「文化的な資源や宝」に関するアンケート調査結果をもとに、市民意識からみた歴史文化の現状を整理します。

1 アンケート調査の実施概要

(1) 調査の目的

本市には、国宝や重要文化財をはじめ数多くの指定された文化財があります。また、指定されてはませんが、歴史的な建造物、伝統的な行事や産業・技術、固有の景観、希少な動植物などが地域に存在しています。

こうした文化財(文化的な資源や宝)を総合的に把握し、適切な保存及び歴史文化をまちづくりに生かすためのあり方・方策を示す「出雲市歴史文化基本構想」の策定に取り組んでおり、市民のみなさまの意識・意見を把握し、構想策定に反映することを目的とします。

(2) 調査対象

16歳以上の出雲市民のうちから、2,000人(無作為抽出)

(3) 調査の実施方法

前記対象者への無記名アンケート調査方式
郵送による、調査票の配布・回収

(4) 調査日程

郵送配布：平成27年12月4日(金)
回収締切：平成27年12月25日(金)
※(平成28年1月13日(水)到着分まで受付)

(5) アンケート回収状況

回収数：730票

回収率：36.5%

表 1-15 地域別回収数及び回収率

区 分	配布数(票)	回収数(票)	回収率(%)
出雲地域	1,041	390	37.5
平田地域	306	102	33.3
佐田地域	45	21	46.7
多伎地域	43	18	41.9
湖陵地域	64	21	32.8
大社地域	173	63	36.4
斐川地域	328	114	34.8
不 明	—	1	—
合 計	2,000票	730票	36.5

(6) 集計結果の表記

各回答の割合(%)は、少数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、端数処理の関係から、各回答の割合(%)の合計が100%にならない場合があります。

2 アンケート調査結果

(1) 回答者の属性

ア 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(〇印は1つ)

回答者の性別は、女性が 54.9%を占め、男性よりも 10.0%多くなっています。

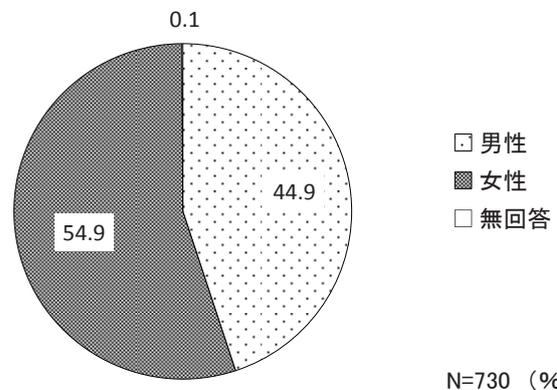


図 1-36 性別

イ 年齢階層

問2 あなたの年齢は、おいくつですか。(〇印は1つ)

回答者の年齢階層は、60～69歳が 25.6%で最も高く、次いで 50～59歳が 15.9%、70～79歳が 14.8%などとなっており、60歳以上が 50.7%と半数を超えています。

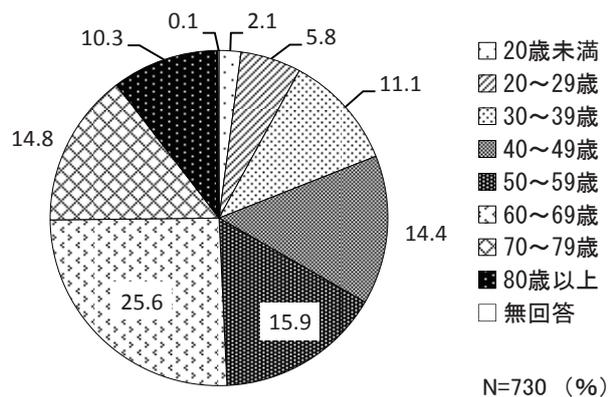


図 1-37 年齢階層

ウ 居住地域

問3 あなたのお住まいの地域は、どちらですか。(〇印は1つ)

回答者の居住地域は、出雲地域が 53.4%と半数を超えています。

その他では、斐川地域が 15.6%、平田地域が 14.0%、大社地域が 8.6%などとなっています。

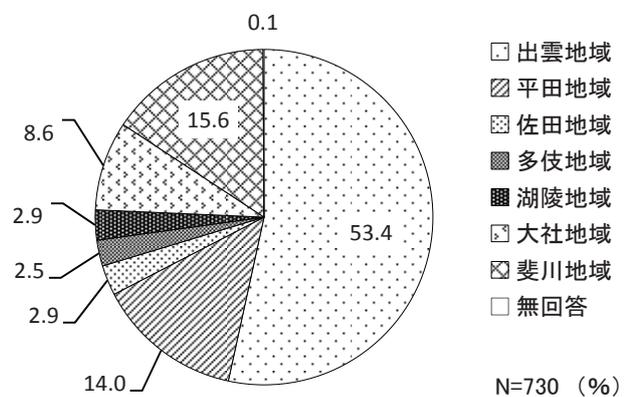


図 1-38 居住地域

(2) 「文化的な資源や宝」の受け止め方について

ア 回答者が思う「文化的な資源や宝」

問4 あなたが思う「文化的な資源や宝」とは、どのようなもの・ことですか。
(当てはまるもの全てに○印)

回答者の思う「文化的な資源や宝」としては、「古い神社やお寺」が86.4%で最も高く、次いで「伝統的な行事・祭り・信仰」が70.3%、「古墳、集落跡、城跡などの遺跡」が67.1%などとなっています。

年齢階層別には、概ね全体と同様の傾向となっていますが、20歳未満、30～39歳、60～69歳で「古くから伝わるものづくりの技術」、20歳未満と80歳以上で「出雲神話や古い言い伝え」が他の年齢階層に比べて高くなっています。

居住地域別には、いずれの地域でも「古い神社やお寺」が最も高くなっているほか、出雲、多伎、湖陵地域で「古墳、集落跡、城跡などの遺跡」、平田地域で「古くから伝わるものづくりの技術」、佐田地域で「出雲弁」、湖陵地域で「出雲神話や古い言い伝え」、大社地域で「歴史的な町並みや景観」、斐川地域で「遺跡からの出土品」があげられており、地域により「文化的な資源や宝」の差がみられます。

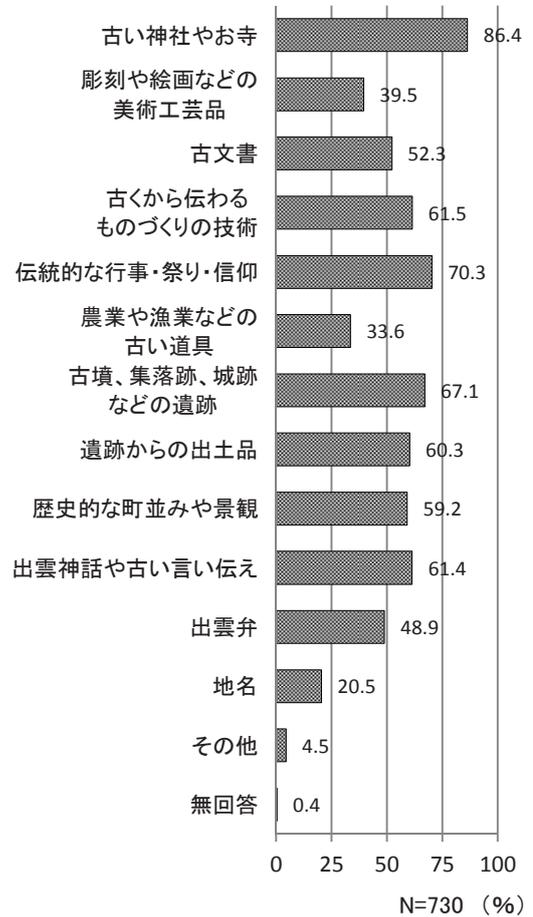


図1-39 回答者が思う「文化的な資源や宝」

表 1-16 居住地域別回答者が思う「文化的な資源や宝」 (%)

区分	男性 (N=328)	女性 (N=401)	20歳未満 (N= 15)	20~29歳 (N= 42)	30~39歳 (N= 81)	40~49歳 (N=105)	50~59歳 (N=116)	60~69歳 (N=187)	70~79歳 (N=108)	80歳以上 (N= 75)
古い神社やお寺	86.9	86.0	86.7	88.1	91.4	90.5	83.6	82.4	89.8	84.0
彫刻や絵画などの美術工芸品	41.2	38.2	53.3	31.0	44.4	44.8	44.8	34.2	35.2	40.0
古文書	54.9	50.4	40.0	54.8	45.7	56.2	55.2	49.7	48.1	64.0
古くから伝わるものづくりの技術	58.5	63.8	86.7	61.9	70.4	61.9	59.5	63.6	52.8	56.0
伝統的な行事・祭り・信仰	66.2	73.6	80.0	71.4	77.8	68.6	75.0	67.4	64.8	69.3
農業や漁業などの古い道具	34.1	33.2	33.3	21.4	28.4	37.1	33.6	30.5	38.0	42.7
古墳、集落跡、城跡などの遺跡	70.4	64.6	80.0	61.9	61.7	74.3	73.3	62.6	63.0	72.0
遺跡からの出土品	61.9	59.1	53.3	64.3	64.2	64.8	62.1	55.6	59.3	60.0
歴史的な町並みや景観	58.5	59.9	46.7	66.7	60.5	67.6	61.2	55.1	52.8	61.3
出雲神話や古い言い伝え	59.8	62.8	80.0	61.9	58.0	54.3	63.8	59.9	60.2	73.3
出雲弁	47.9	49.6	40.0	38.1	45.7	43.8	55.2	47.1	51.9	57.3
地名	22.9	18.7	13.3	11.9	14.8	19.0	23.3	18.2	24.1	32.0
その他	4.3	4.7	-	4.8	4.9	6.7	1.7	5.3	5.6	2.7
無回答	0.6	0.2	-	-	-	-	-	0.5	1.9	-

区分	出雲地域 (N=390)	平田地域 (N=102)	佐田地域 (N= 21)	多伎地域 (N= 18)	湖陵地域 (N= 21)	大社地域 (N= 63)	斐川地域 (N=114)
古い神社やお寺	85.6	85.3	90.5	94.4	76.2	93.7	86.0
彫刻や絵画などの美術工芸品	42.1	42.2	19.0	50.0	23.8	41.3	32.5
古文書	55.6	49.0	38.1	61.1	33.3	54.0	47.4
古くから伝わるものづくりの技術	63.1	65.7	38.1	61.1	47.6	63.5	57.9
伝統的な行事・祭り・信仰	69.2	72.5	61.9	83.3	61.9	85.7	64.0
農業や漁業などの古い道具	34.4	29.4	38.1	33.3	23.8	38.1	33.3
古墳、集落跡、城跡などの遺跡	72.3	62.7	47.6	72.2	57.1	63.5	59.6
遺跡からの出土品	64.1	50.0	42.9	61.1	38.1	55.6	65.8
歴史的な町並みや景観	60.3	63.7	23.8	61.1	42.9	69.8	54.4
出雲神話や古い言い伝え	63.3	61.8	47.6	50.0	57.1	60.3	60.5
出雲弁	48.5	52.9	52.4	50.0	33.3	46.0	50.0
地名	19.2	21.6	14.3	27.8	14.3	28.6	21.1
その他	4.6	5.9	9.5	5.6	14.3	3.2	0.9
無回答	0.3	-	4.8	-	-	1.6	-

※□は第1位、■は第2位及び第3位の項目

イ 市内を代表する「文化的な資源や宝」

問5 あなたにとって、市内を代表する「文化的な資源や宝」は何ですか。（記述式）

市内を代表する「文化的な資源や宝」については、「出雲大社」が411件(68.5%)で最も多く、次いで「荒神谷遺跡」、「神社仏閣」などとなっています。

地域別にみても「出雲大社」が最も多くなっており、出雲地域、多伎地域、大社地域では7割を超えています。

「出雲大社」以外では、平田地域で「鱈淵寺」、佐田地域で「須佐神社」、大社地域で「日御碕神社」、斐川地域で「荒神谷遺跡」などが比較的高い割合となっており、地域により差がみられます。

表1-17 市内を代表する「文化的な資源や宝」（上位項目）

全地域合計(回答者 600 人、意見総数 1,206 件)			
・出雲大社	411 件 (68.5%)	・鱈淵寺	33 件 (5.5%)
・荒神谷遺跡	82 件 (13.7%)	・築地松	31 件 (5.2%)
・神社仏閣	44 件 (7.3%)	・日御碕神社	31 件 (5.2%)
・出雲神話、出雲風土記	39 件 (6.5%)	・須佐神社	29 件 (4.8%)
・出雲弁	38 件 (6.3%)	・弥生の森、西谷墳墓群	29 件 (4.8%)

出雲地域(回答者 318 人、意見総数 636 件)			
・出雲大社	232 件 (73.0%)	・古墳、遺跡、城跡等	19 件 (6.0%)
・荒神谷遺跡	41 件 (12.9%)	・出雲弁	19 件 (6.0%)
・弥生の森、西谷墳墓群	25 件 (7.9%)	・日御碕神社	17 件 (5.3%)
・出雲神話、出雲風土記	23 件 (7.2%)	・築地松	16 件 (5.0%)
・神社仏閣	22 件 (6.9%)	・須佐神社	15 件 (4.7%)

平田地域(回答者 83 人、意見総数 182 件)	
・出雲大社	42 件 (50.6%)
・鱈淵寺	16 件 (19.3%)
・平田一式飾	13 件 (15.7%)
・一畑薬師(一畑寺)	10 件 (12.0%)
・出雲弁	10 件 (12.0%)

佐田地域(回答者 18 人、意見総数 36 件)	
・出雲大社	9 件 (50.0%)
・須佐神社	9 件 (50.0%)
・八雲風穴	3 件 (16.7%)
・神西湖	2 件 (11.1%)

多伎地域(回答者 11 人、意見総数 15 件)	
・出雲大社	9 件 (81.8%)
その他(和歌山権現、富士ヶ城、神西湖、生活を表すものなど)	いずれも各1件

湖陵地域(回答者 19 人、意見総数 31 件)	
・出雲大社	11 件 (57.9%)
・神社仏閣	3 件 (15.8%)
・伝統的な祭りや行事など	3 件 (15.8%)
その他(須佐神社、高瀬城址、出雲神話、ものづくりの技術など)	いずれも各1件

大社地域(回答者 53 人、意見総数 128 件)	
・出雲大社	46 件 (86.8%)
・日御碕神社	12 件 (22.6%)
・出雲日御碕灯台	7 件 (13.2%)
・荒神谷遺跡	6 件 (11.3%)
・旧出雲大社駅	6 件 (11.3%)

斐川地域(回答者 98 人、意見総数 178 件)	
・出雲大社	62 件 (63.3%)
・荒神谷遺跡	29 件 (29.6%)
・築地松	12 件 (12.2%)
・遺跡等からの出土品	8 件 (8.2%)
・出雲弁	6 件 (6.1%)

※割合は回答者数に対する値。

ウ 身近にある「文化的な資源や宝」

問6 あなたの身近にある「文化的な資源や宝」は何ですか。（記述式）

回答者の身近にある「文化的な資源や宝」を地域別にみると、出雲地域で「出雲大社」、平田地域で「鰐淵寺」、佐田地域で「須佐神社」、多伎地域で「伝統的な祭りや行事など」、湖陵地域で「^{じんじぼな}神事華」、大社地域で「出雲大社」、斐川地域で「荒神谷遺跡」などとなっています。

大社地域と斐川地域では第1位の項目が5割を超えています。出雲地域、平田地域、湖陵地域では3割を下回るなど、意見が分散していることがうかがえます。

表 1-18 身近にある「文化的な資源や宝」（上位項目）

出雲地域(回答者 254 人、意見総数 417 件)			
・出雲大社	63 件 (24.8%)	・神楽(神西神楽、石見神楽など)	17 件 (6.7%)
・出雲弁	41 件 (16.1%)	・荒神谷遺跡	15 件 (5.9%)
・古墳、遺跡等(不特定)	21 件 (8.3%)	・伝統的な祭りや行事など	15 件 (5.9%)
・神社仏閣(不特定)	20 件 (7.9%)	・高瀬川	12 件 (4.7%)
・弥生の森、西谷墳墓群	19 件 (7.5%)	・大念寺古墳	10 件 (3.9%)

平田地域(回答者 73 人、意見総数 133 件)		佐田地域(回答者 15 人、意見総数 24 件)	
・鰐淵寺	14 件 (19.2%)	・須佐神社	6 件 (40.0%)
・平田「木綿街道」	13 件 (17.8%)	・神楽	3 件 (20.0%)
・出雲弁	12 件 (16.4%)	・八雲風穴	2 件 (13.3%)
・一畑薬師(一畑寺)	7 件 (9.6%)	・農村歌舞伎むらくも座	2 件 (13.3%)
・平田一式飾	7 件 (9.6%)		

多伎地域(回答者 12 人、意見総数 17 件)		湖陵地域(回答者 15 人、意見総数 25 件)	
・伝統的な祭りや行事など	5 件 (41.7%)	・神事華	4 件 (26.7%)
・田儀櫻井家たたら製鉄遺跡	4 件 (33.3%)	・出雲大社	3 件 (20.0%)
・神社仏閣(不特定)	3 件 (25.0%)	・神社仏閣	3 件 (20.0%)
その他(多伎芸神社、神楽、神事華など)	いずれも各 1 件	・神西湖	3 件 (20.0%)
		・しじみ漁	2 件 (13.3%)
		・弥久賀神社	2 件 (13.3%)

大社地域(回答者 53 人、意見総数 128 件)		斐川地域(回答者 88 人、意見総数 141 件)	
・出雲大社	34 件 (60.7%)	・荒神谷遺跡	44 件 (50.0%)
・神社仏閣(不特定)	6 件 (10.7%)	・築地松	17 件 (19.3%)
・旧出雲大社駅	6 件 (10.7%)	・伝統的な祭りや行事など	10 件 (11.4%)
・日御碕神社	5 件 (8.9%)	・出雲弁	10 件 (11.4%)
・伝統的な祭りや行事など	5 件 (8.9%)	・万九千神社	8 件 (9.1%)
・稲佐の浜	5 件 (8.9%)		

※割合は回答者数に対する値。

(3) 「文化的な資源や宝」への関心について

ア 「文化的な資源や宝」に関心があるか

問7 あなたは、「文化的な資源や宝」に関心がありますか。(〇印は1つ)

「文化的な資源や宝」に関心があるかについては、「どちらかというに関心がある」が47.7%で最も高く、次いで「とても関心がある」が28.5%となっており、これらを合わせた文化的な資源や宝に関心のある人は76.2%となっています。

属性別にみても、文化的な資源や宝に関心のある人は概ね7～8割程度となっています。

20歳未満と50～59歳では文化的な資源や宝に関心のない人(「どちらかというに関心がない」と「関心がない」の合計)が約3割と他の年齢階層よりも高くなっています。

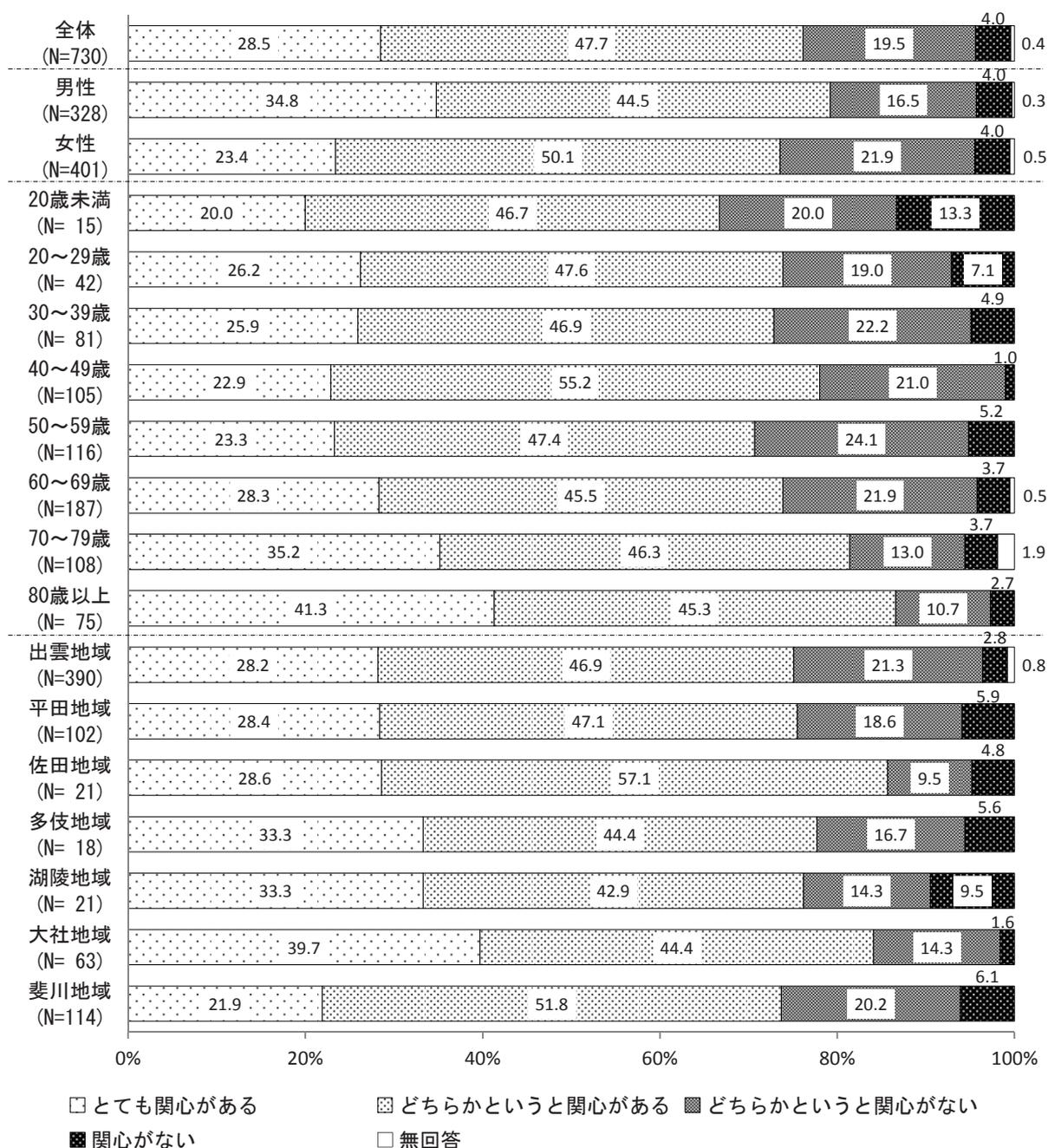


図 1-40 「文化的な資源や宝」に関心があるか

イ「文化的な資源や宝」が大切だと思うか

問8 あなたは、「文化的な資源や宝」が大切だと思いますか。(○印は1つ)

「文化的な資源や宝」が大切だと思うかについては、「大切である」が70.5%で最も高く、次いで「どちらかという大切なものである」が27.9%となっており、これらを合わせた文化的な資源や宝が大切だと思う人は98.4%と大半を占めています。

属性別には、いずれの属性も文化的な資源や宝が大切だと思う人が9割以上となっていますが、佐田地域と湖陵地域で「大切ではない」が他の属性に比べて高くなっています。

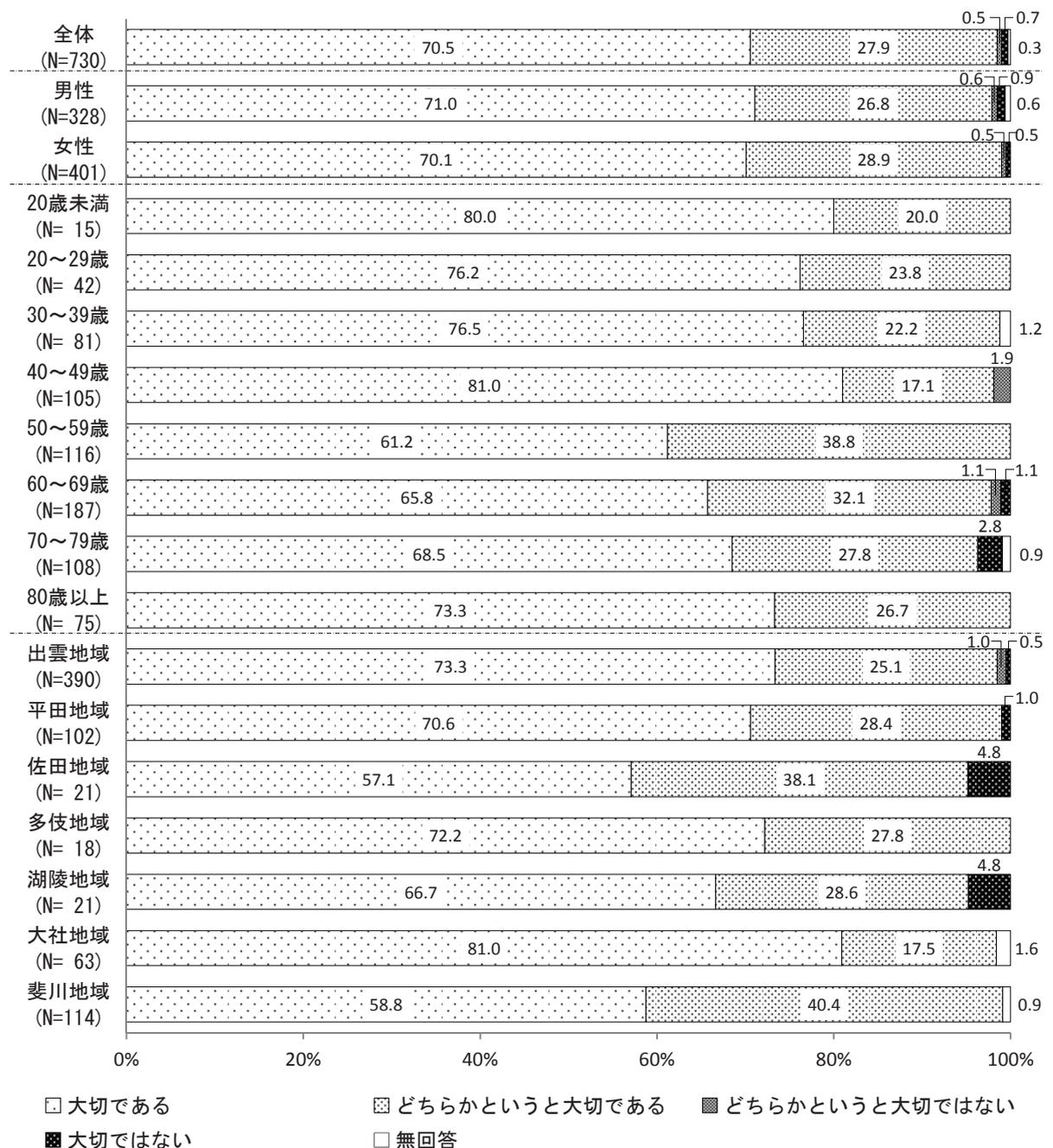


図1-41 「文化的な資源や宝」が大切だと思うか

(4) 「文化的な資源や宝」の保存・活用について

ア 「文化的な資源や宝」を次世代に伝えていくことは重要だと思うか

問9 あなたは、「文化的な資源や宝」を地域のかげがえのないものとして次世代に伝えていくことは重要だと思いますか。(○印は1つ)

「文化的な資源や宝」を次世代に伝えていくことは重要だと思うかについては、「重要だ」が68.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば重要だ」が29.2%となっており、これらを合わせた次世代に伝えていくことが重要だと思う人は97.6%と大半を占めています。

属性別には、いずれの属性も次世代に伝えていくことが重要だと思う人が9割以上となっていますが、佐田地域で「重要ではない」が他の属性に比べて高くなっています。

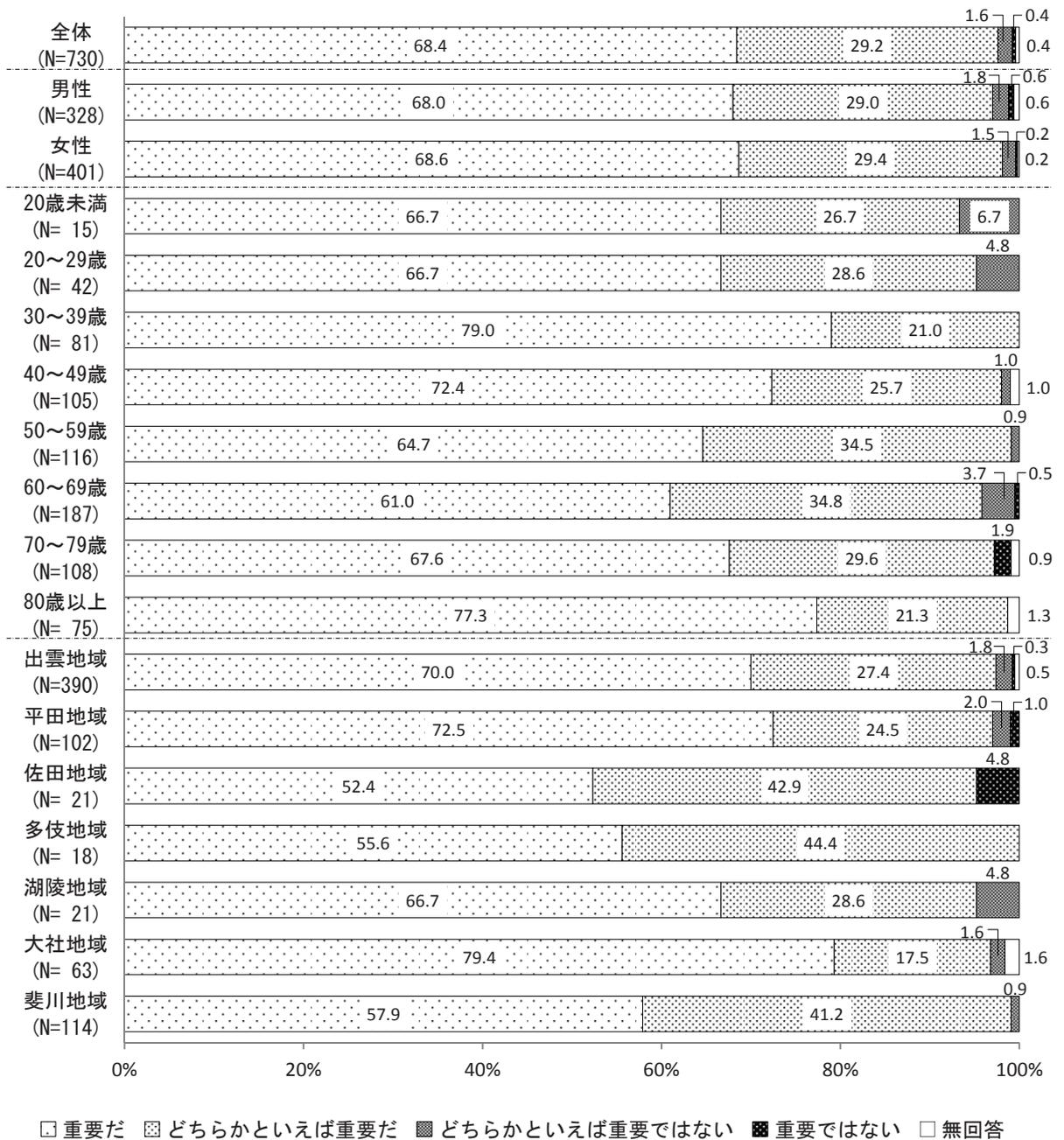


図1-42 「文化的な資源や宝」を次世代に伝えていくことは重要だと思うか

イ「文化的な資源や宝」がもたらす効果や役割

問 10 あなたは、「文化的な資源や宝」がもたらす効果や役割を、どのようにお考えですか。（当てはまるもの全てに○印）

「文化的な資源や宝」がもたらす効果や役割としては、「地域への愛着や誇りになる」が72.1%で最も高く、次いで「観光や産業の発展につながる」が66.6%、「イメージや魅力の向上につながる」が56.8%などとなっています。

属性別にみても、概ね全体と同様の傾向にあります。

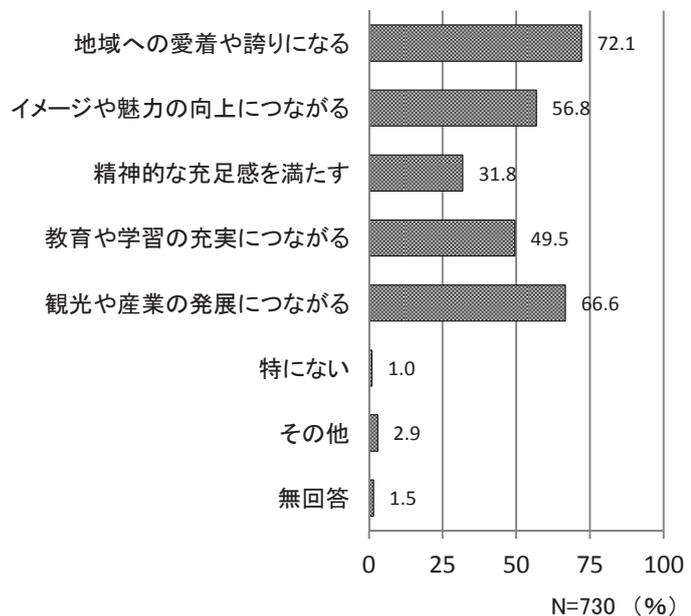


図 1-43 回答者が思う「文化的な資源や宝」

表 1-19 「文化的な資源や宝」がもたらす効果や役割 (%)

区分	男性 (N=328)	女性 (N=401)	20歳未満 (N=15)	20~29歳 (N=42)	30~39歳 (N=81)	40~49歳 (N=105)	50~59歳 (N=116)	60~69歳 (N=187)	70~79歳 (N=108)	80歳以上 (N=75)
地域への愛着や誇りになる	70.4	73.3	60.0	64.3	80.2	73.3	75.9	69.0	68.5	74.7
イメージや魅力の向上につながる	56.7	56.9	80.0	71.4	63.0	52.4	56.9	53.5	52.8	57.3
精神的な充足感を満たす	31.4	32.2	20.0	9.5	18.5	23.8	31.9	40.6	33.3	48.0
教育や学習の充実に繋がる	45.4	52.9	26.7	47.6	59.3	46.7	45.7	44.4	53.7	61.3
観光や産業の発展につながる	62.8	69.6	40.0	76.2	71.6	65.7	62.9	62.6	67.6	76.0
特にない	1.2	0.7	-	-	-	1.0	0.9	1.6	0.9	1.3
その他	3.7	2.2	-	2.4	1.2	5.7	3.4	2.7	2.8	1.3
無回答	1.2	1.7	-	-	1.2	-	-	1.6	2.8	5.3

区分	出雲地域 (N=390)	平田地域 (N=102)	佐田地域 (N=21)	多伎地域 (N=18)	湖陵地域 (N=21)	大社地域 (N=63)	斐川地域 (N=114)
地域への愛着や誇りになる	73.1	70.6	76.2	61.1	57.1	85.7	66.7
イメージや魅力の向上につながる	54.4	66.7	52.4	55.6	52.4	55.6	59.6
精神的な充足感を満たす	31.5	37.3	33.3	22.2	23.8	44.4	22.8
教育や学習の充実に繋がる	48.5	55.9	38.1	55.6	52.4	47.6	48.2
観光や産業の発展につながる	65.6	69.6	66.7	50.0	61.9	74.6	65.8
特にない	1.5	-	-	5.6	-	-	-
その他	2.8	4.9	4.8	-	9.5	-	1.8
無回答	1.5	1.0	4.8	-	-	1.6	1.8

※□は第1位、■は第2位の項目

ウ 出雲市の「文化的な資源や宝」を生かす取り組みが、十分に行われていると思うか

問 11 あなたは、出雲市では「文化的な資源や宝」を生かす取り組みが、十分に行われていると思いますか。(○印は1つ)

出雲市の「文化的な資源や宝」を生かす取り組みが、十分に行われていると思うかについては、「それなりに行われている」が70.1%で最も高く、「十分に行われている」と合わせた76.5%が「文化的な資源や宝」を生かす取り組みを評価していると言えます。

年齢階層別には、20～29歳で生かす取り組みを評価していない(「どちらかといえば不十分だ」と「不十分だ」の合計)が35.7%と他の年齢階層よりも高くなっています。

地域別には、湖陵地域で生かす取り組みを評価していない割合が28.5%と高くなっています。

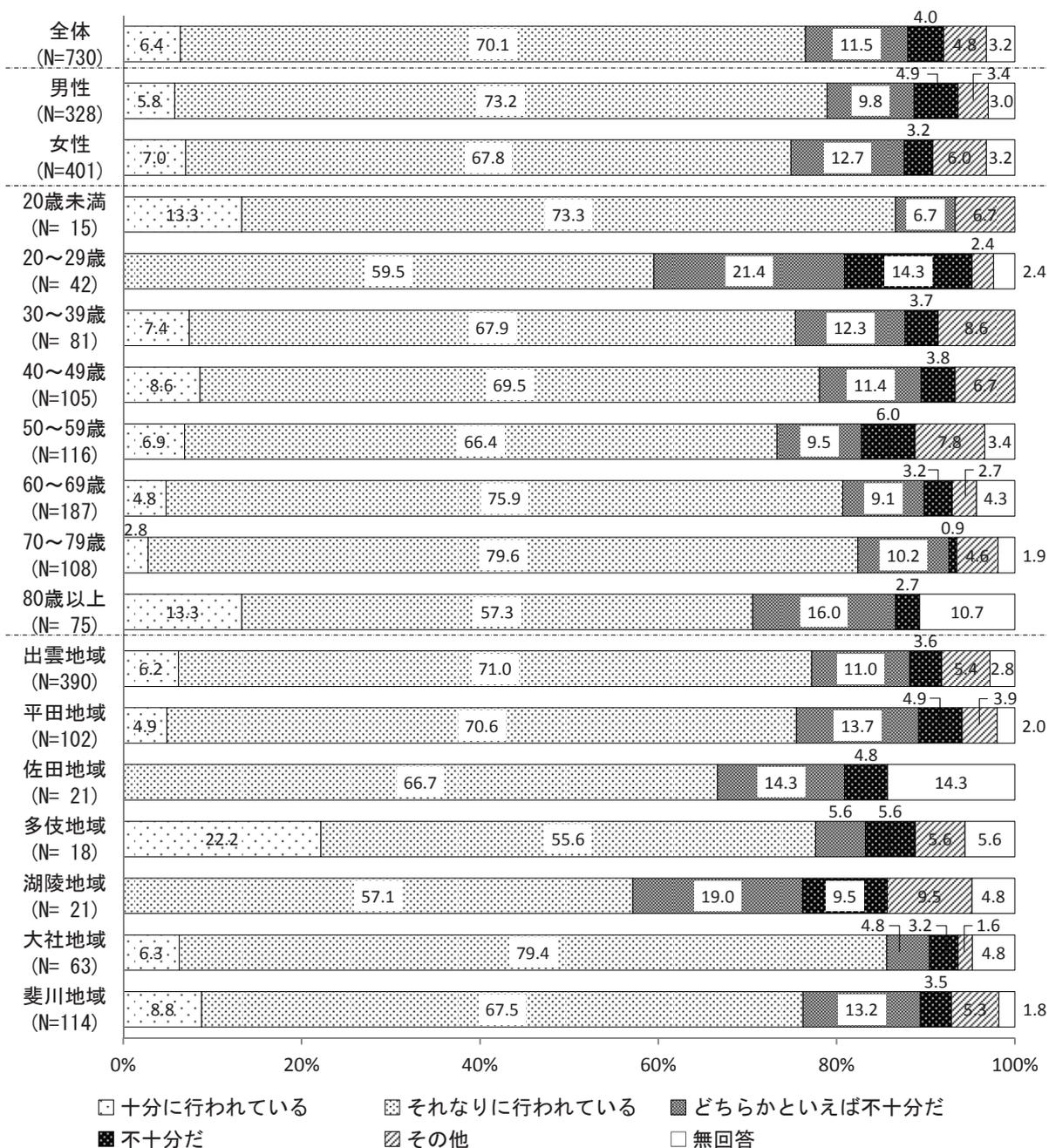


図 1-44 出雲市の「文化的な資源や宝」を生かす取り組みが、十分に行われていると思うか

エ 出雲市でどのような取り組みを行うべきだと思うか

問 12 これから出雲市でどのような取り組みを行うべきだと思いますか。（記述式）
（問 11 で「どちらかといえば不十分だ」又は「不十分だ」と回答した人）

出雲市で行うべきだと思う取り組みとしては、「宣伝・情報発信」が 51 件で最も多く、次いで「教育・学習」23 件、「資源の継承・活用」が 18 件などとなっています。

細分類をみると、「広報全体の充実と全国へのアピール」が 24 件で最も多く、次いで「資源活用の取組状況などの市民への情報発信」が 11 件、「文化に関する学校教育の充実」が 10 件などとなっています。

表 1-20 出雲市で行うべきだと思う取り組み

分類	件数	意見内容			
宣伝・情報発信	51	広報全体の充実と全国へのアピール	24		
		資源活用の取組状況などの市民への情報発信	11		
		メディアやタレント、有名人使った宣伝	5		
		ポスター、パンフレット、ホームページ等の作成・充実	4		
		週報の充実・活用	2		
		観光部門との連携	1		
		どこの店でも共通 PR できる仕組み	1		
		看板等の充実	1		
		トップセールス	1		
		イベントの増	1		
		教育・学習	23	文化に関する学校教育の充実	10
体験から大切さ、貴重さを学ぶ機会の充実	3				
若い人、子どもへの伝達・伝承、後継者育成	3				
文化に関する地図、教材等の充実	2				
地域への愛着、誇りを育む取組	2				
子どもたちの参加する取組	2				
資源等について考える機会の充実	1				
資源継承のための支援・助成	3				
資源の継承・活用	18	荒神谷遺跡の保存・管理の充実	2		
		出雲大社・大国主以外の資源活用	2		
		古い物の活用	2		
		各地域の特長を生かす	2		
		山林・農地の維持	2		
		埋蔵文化財は現状維持を	1		
		地域レベルでの取り組みから	1		
		ものづくり技術の継承	1		
		文化財の活用	1		
		神楽等のイベントへの活用	1		
		交通の改善	7	資源間を結ぶバスの運行	3
				交通便の改善・充実	3
出雲大社周辺の観光バス等対策	1				
施設等の整備	4	類似施設の整理・統合	2		
		市内施設無料日の設定	1		
		町並みの整備	1		
その他			8		
合計			111		

(5) 自由意見

自由記述欄への記入は、220人、意見総数で239件(一人で複数意見を記載されている場合は分類)の記載となっています。

分類別には、【文化財・資源の保存・活用に関する意見】が56件で最も多く、次いで【宣伝・情報発信に関する意見】が48件、【学習・教育に関する意見】が46件などとなっています。

主な意見内容別には、「学校教育、ふるさと学習の充実」が25件で最も多く、全意見の1割程度となっています。

その他では、「広報・宣伝全般の充実」と「市民に向けた情報発信、学びの場の充実」が16件、「次世代へ伝えるための取組の充実」が9件などとなっています。

表 1-21 自由意見の分類

分類	件数	主な意見内容	
文化財・資源の 保存・活用に関する意見	56	次世代へ伝えるための取組の充実	9
		保存・活用の推進	7
		各地域の資源・宝の掘り起こし	4
		数を絞って保存活用し、その他は資料保管	4
		伝統行事(祭り、吉兆行事)などの維持・活用	4
		伝承や伝統行事の記録化	4
		地域を巻き込んだ維持・管理と支援	3
		無形文化財(出雲弁など)の保存・活用	3
宣伝・情報発信に関する意見	48	広報・宣伝全般の充実	16
		市民に向けた情報発信、学びの場の充実	16
		メディア、タレント等を活用したPR・情報発信	3
		パンフレット等の啓発資料の充実	2
		出雲大社以外にスポットを当てる	2
学習・教育に関する意見	46	学校教育、ふるさと学習の充実	25
		課外授業などの体験機会の充実	5
		文化・文化財の大切さを知る機会の充実	4
		文化施設等での学べる機会の充実	3
		宝として吹奏楽、合唱の維持	2
		歴史や神話などわかりやすい表現などでの解説	2
まちづくり全般に関する意見	23	文化財・資源の観光施策への活用	6
		文化財の節度を持った観光利用	2
		開発を控え、文化に自然とふれる場の維持	2
		財政の改善	2
		子どもや高齢者のためになる事への税金利用	2
文化施設に関する意見	16	活用・運営方法の見直し	2
		資料を集約した施設づくりと経費削減	2
		博物館等の必要性の再検討	2
		弥生の森博物館東側の森の活用	2
特定資源等の活用に関する意見	15	平田「木綿街道」の充実・PR	2
		鱒淵寺、河下港等の充実・活用	2
		西谷墳墓群の周知・活用	2
		その他(神話での一貫整備、立久恵薬師と立久恵峽、北山連峰、神西湖、旧大社駅SL、大梶古墳、大船山歩道など)	-
人づくりに関する意見	11	伝統芸能の後継者育成への支援	3
		専門知識を有する人材育成	2
交通・施設等の整備に関する意見	10	文化財までの交通不便さの解消	3
アンケートに関する意見	5		
その他・感想など	9		
合計	239		

3 アンケート調査結果からみた課題と解決策

アンケート調査結果から、出雲市の文化財(歴史文化)の保存・活用に関わる課題を導き出すとともに、その解決策を例示すると、次のようになります。

表 1-22 アンケート調査結果からみた課題と解決策

1 / 2

アンケート調査の項目(設問)	課題検討に関わる主な調査結果(要点)	アンケート調査から導き出す課題	課題の解決策(例示)	
「文化的な資源や宝」の受け止め方	回答者が思う「文化的な資源や宝」	「古い神社やお寺」、「伝統的な行事・祭り・信仰」、「古墳、集落跡、城跡などの遺跡」への関心が高い。 一方で、「美術工芸品」や「農業や漁業などの古い道具」などへの関心は、やや低い。	○文化財に関する普及啓発の充実	
		地域別で、関心の高い文化財に特徴、違いがある。	○全市の文化財に関する情報提供 ○各地域(文化財)における体験機会の拡充及び地域間交流と相互理解の促進	
	市内を代表する「文化的な資源や宝」	市民の意識としては圧倒的に「出雲大社」の認識が高い。	○出雲大社を市民とともに、さらに生かしていく取組を検討する必要がある。 ○その他の文化財についても、認知度や関心を高める取組が必要である。	○市民と連携した出雲大社を生かした情報発信やおもてなしの検討 ○文化財に関する普及啓発の充実(再掲)
身近にある「文化的な資源や宝」	出雲地域や大社地域では「出雲大社」、斐川地域では「荒神谷遺跡」など、地域ごとの特色が色濃く示されている。	○地域ごとの文化財の特色や市民(住民)の意識を踏まえた文化財の保存・活用を検討する必要がある。	○地域ごとの文化財を生かしたまちづくり活動などの促進(支援) ○文化財の保存・活用への住民参加の促進	
「文化的な資源や宝」への関心	「文化的な資源や宝」への関心	「関心がある」と「どちらかというに関心がある」は全体の3/4強。 一方、「関心がない」と「どちらかというに関心がない」は約2割。	○関心がない層を減らす努力が必要である。	○文化財に関する普及啓発の充実(再掲)
	「文化的な資源や宝」の大切さ	大半が文化財の大切さを認識している。	○今後とも、文化財の大切さについて理解を高める取組を継続的に行う必要がある。	○文化財に関する普及啓発の充実(再掲)

表 1-22 アンケート調査結果からみた課題と解決策

アンケート調査の項目(設問)	課題検討に関わる主な調査結果(要点)	アンケート調査から導き出す課題	課題の解決策(例示)
「文化的な資源や宝」の保存・活用	「文化的な資源や宝」の次世代への継承 大半が文化財の次世代への継承の重要性を認識している。	○今後とも、文化財の次世代への継承の大切さについて理解を高める取組を継続的に行うとともに、継承活動への市民参加を促進する必要がある。	○学校教育や生涯学習における文化財の普及啓発の充実 ○市民(子どもを含む)参加による文化財の継承(保存・活用)活動の促進
	「文化的な資源や宝」の役割・効果 「地域への愛着や誇りになる」、「観光や産業の発展につながる」、「イメージや魅力の向上につながる」が上位となっている。	○「文化的な資源や宝」の役割・効果について、地域の文化財などに関連させながら、伝えていく必要がある。	○観光や産業の資源化に向けた文化財のブラッシュアップ
	「文化的な資源や宝」を生かす取り組み(十分かどうか) 「それなりに行われている」が約7割、「十分に行われている」が1割強となっている。	○出雲市の取組について、様々な機会などを通じて市民に伝えていく必要がある。	○文化財に関する普及啓発の充実(再掲) ○文化財とふれあう多様な機会の確保・充実、及び情報提供
	出雲市が行うべき取り組み 分野としては「宣伝・情報発信」、「教育・学習」、「資源の継承・活用」が上位となっている。具体的な内容としては「広報全体の充実と全国へのアピール」、「資源活用の取組状況などの市民への情報発信」、「文化に関する学校教育の充実」が上位となっている。	○市民の意見を踏まえながら、出雲市としての文化財の保存・活用への取組を検討する必要がある。	○市民の意見を踏まえた文化財の保存・活用の充実(PDCAサイクルへの反映など) ○市内外への文化財に関わる情報発信の充実
自由意見	多分野に及ぶ意見が寄せられており、特に「文化財・資源の保存・活用」に関する意見が多く、次いで「宣伝・情報発信」、「学習・教育」などが上位となっている。	○市民の意見・要望については、個別的に把握し、文化財の保存・活用への反映を検討する必要がある。 ○文化財課の担当分野以外の内容も含まれており、全庁的な情報の共有化、関係部署での内容の検討などにつながる必要がある。	○アンケート調査結果(自由意見を含む)の庁内での情報の共有化、施策等の基礎資料としての活用 ○本構想策定過程における関係部署との意見交換の場の設置 ○学校教育や生涯学習における文化財の普及啓発の充実(再掲)

第4節 出雲市の歴史文化の特徴と価値、課題

1 出雲市の文化財(歴史文化)の特徴と価値

(1) 文化財(歴史文化)の全体的な特徴と価値

■原始・古代の出雲と日本の歴史を物語る文化財(歴史文化)

荒神谷遺跡や西谷墳墓群など、大きな勢力が原始からこの地にあったことをうかがわせる文化財が多数遺存します。

また、出雲大社や須佐神社が創建され、現在まで信仰をあつめています。

■出雲神話と風土記の舞台として連綿と受け継がれた文化財(歴史文化)

『古事記』や『日本書紀』・『出雲国風土記』に出てくる神話の舞台と合致する地形・地名、ゆかりの神社などが今に引き継がれています。

■出雲平野と日本海沿岸・島根半島、中国山地、湖沼・河川といった地理的条件を反映した多様な文化財(歴史文化)

出雲平野一帯に存在する建造物(出雲大社など)、遺跡(荒神谷遺跡など)、散居集落、日本海沿岸の“浦”や日御碕、中国山地における神社や集落、製鉄遺跡群、宍道湖・神西湖や斐伊川・神戸川と関わり合う文化財など、地理的条件を反映した多様な歴史文化が残されています。

■地域や時代が関連し、つながり合う文化財(歴史文化)

出雲市においては、個々の文化財(歴史文化)間で、歴史的・地域的なつながりを読み解くことができるものが多数存在します。

それは、個別的な要素・分類(大社造、民俗芸能など)であったり、歴史的な関連性(出雲大社と鰐淵寺など)や地域的な広がり(散居集落、古墳群など)であったりします。さらに、日本海(海道、北前船)や街道等による交流・交易、出雲神話に関わる地名・地形・地物など、地域的・歴史的関連性を、ダイナミズム(力強さ、迫力)やロマン(夢や冒険などへの強いあこがれを抱かせること)を伴ってうかがい知ることができる特徴や価値を内在しています(下記：例)。

○出雲神話(国引き神話)：藪の長浜(稲佐の浜)、杵築、狭田(島根半島)、日御碕など

○斐伊川・たたら製鉄(鉄穴流し)⇒下流部における土砂の堆積(天井川、平野、上流部と下流部の関係)⇒綿花の栽培・木綿の生産⇒稲作+綿花、散居集落・築地松

○北前船の航路、交易・交流の歴史文化、大陸との交流・交易(古代など)…市域を越えた関係

○島根半島の地形や“浦”：特徴的な地形(リアス式海岸)の連続性、数多くの“浦”
…松江市との連続性

(2) 文化財の6分類ごとの特徴と価値

ア 有形文化財

出雲大社本殿をはじめとする建造物、日御碕神社所有の白糸威鎧などの美術工芸品、大寺薬師の仏像群などの彫刻、鰐淵寺で受け継がれてきた絵画や古文書など、この地の有形文化財は質・量ともに山陰でもトップクラスです。

イ 無形文化財

江戸時代からの染色である「筒描藍染」^{つつがきあいぞめ}が引き継がれるなど、この地における木綿の生産の歴史文化をうかがい知ることができます。

ウ 民俗文化財

市内には大土地神楽^{おおどち}や吉兆神事^{きつちようしんじ}など他市町と比較しても抜きん出た数の指定無形民俗文化財があります。

また、衣食住や農業に関するものや神楽、踊りなど、有形・無形の民俗文化財が多数残されています。特に、神楽、踊りなどは、未指定のものも数多く継承されてきています。

エ 記念物

荒神谷遺跡や西谷墳墓群、たたら製鉄遺跡、鰐淵寺境内などの史跡、経島のウミネコ繁殖地、日御碕のソテツなどの天然記念物が多数あります。

また、立久恵は名勝及び天然記念物に指定されています。

加えて、各地域には石造物をはじめとした未指定の文化財が数多く残されています(文化財の地域別聞き取り調査)。

オ 文化的景観

選定された文化的景観はありませんが、生活又は生業及び当該地域の風土により形成されたものとしては、出雲平野の散居集落、島根半島・“浦”と漁村集落・港町、斐伊川とその周辺の景観(河川、農村集落、山地)、その他、棚田・里山等の景観などをあげることができます。

カ 伝統的建造物群

選定された伝統的建造物群はありませんが、出雲大社周辺や「木綿街道」の町並み、小伊津や鷺浦の集落などをあげることができます。

また、出雲平野の散居集落は文化的景観であると同時に、伝統的建造物群の性格も有しているといえます。

2 出雲市の文化財(歴史文化)の保存・活用の課題

出雲市の文化財(歴史文化)の現状及び特徴と価値、歴史文化の保存・活用を取り巻く環境の変化や動向(歴史文化基本構想、歴史文化を生かしたまちづくりに関わる流れなど)を踏まえ、出雲市の文化財(歴史文化)の保存・活用の課題を検討すると、次のように7つの主要な課題が設定できます。

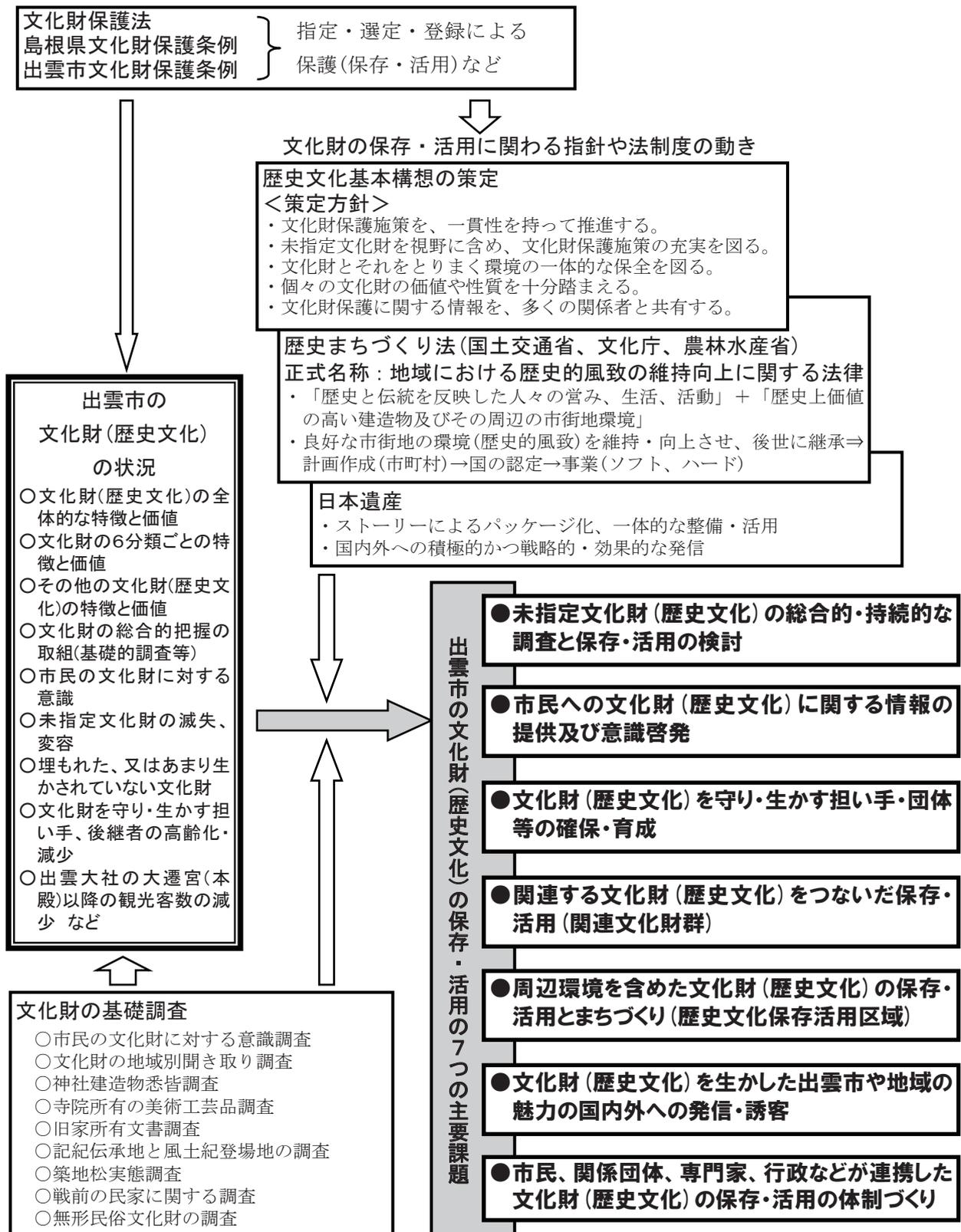


図 1-45 出雲市の文化財(歴史文化)の保存・活用の課題の設定

(1) 未指定文化財(歴史文化)の総合的・持続的な調査と保存・活用の検討

文化財の基礎調査を通じて、出雲市内には、まだ行政として把握できていない数多くの文化財があることを再認識しました。

今後とも、文化財の総合的な把握のための調査を持続的に行うとともに、価値や特徴についての調査・研究も必要となります。

さらに、把握した文化財については、その保存・活用策の検討が求められます。

(2) 市民等への文化財(歴史文化)に関する情報の提供及び意識啓発

文化財は、歴史文化の伝承、学ぶことや地域を愛する・誇りに思う心の醸成の対象、地域の魅力づくりや観光の資源など多様な役割・可能性を持っています。

また、文化財の保存・活用は、行政だけで担うには限界があり、市民等の理解と協力、そして担い手としての参加が不可欠です。

このため、基礎的な取組として、市民等へ文化財に関わる情報を分かりやすく提供するとともに、学習機会、体験機会の確保を通じた意識啓発が必要となります。

(3) 文化財(歴史文化)を守り・生かす担い手・団体等の確保・育成

無形文化財は、その担い手がいてはじめて成り立つものであり、また、有形無形の文化財を守り・生かすのは担い手や所有者はもちろんのことですが、それを支える市民等の存在も大切になります。

このため、関係者・団体等と連携して、継承者の確保・育成に取り組むとともに、日常的な維持管理・点検を含め、文化財を守り・生かす地域住民をはじめとした市民等の力の活用にも取り組む必要があります。また、地域住民の協力と参加、更には協働によって、文化財を生かしたまちづくり、地域の魅力づくりを進めることも期待されます。

(4) 関連する文化財(歴史文化)をつないだ保存・活用(関連文化財群)

歴史文化基本構想の柱の一つに、テーマ等で文化財をつなぐ関連文化財群という考え方・方策があります。

このため、出雲市の文化財の現状や特徴を踏まえながら、テーマを見だし、個々の文化財をつなぎ、保存・活用することが求められます。

(5) 周辺環境を含めた文化財(歴史文化)の保存・活用とまちづくり(歴史文化保存活用区域)

歴史文化基本構想の柱の一つに、文化財の集中している特定地域を対象に、周辺環境を含め文化財を核に文化的な空間を形成する、歴史文化保存活用区域という考え方・方策があります。

このため、出雲市の文化財の立地や集積状況、特徴などを踏まえながら、可能な限り文化財と周辺環境を一体的に捉え、保存・活用に取り組むことが求められます。また、歴史文化を生かしたまちづくりへの展開につながることも重要となります。

(6) 文化財(歴史文化)を生かした出雲市や地域の魅力の国内外への発信・誘客

文化財の多様な役割・可能性を鑑^{かんが}み、文化財を地域の魅力づくりの資源として保存・活用し、それを国内外に発信することが期待されます。

具体的には、観光振興に関わる文化財を生かした情報発信や誘客、シティセールス、更には日本遺産の認定に向けた取組などが考えられます。

(7) 市民、関係団体、専門家、行政などが連携した文化財(歴史文化)の保存・活用の体制づくり

文化財を保護するためには、所有者、担い手、関係団体、地域住民、コミュニティ、行政などが、それぞれの役割を担っていくことが必要です。

また、計画的・効果的に文化財を保護していくためには、各主体が相互に連携して取り組むことが不可欠であり、協働や地域ぐるみの取組などが求められるとともに、市内外の学識経験者や専門家、支援者などとの連携・協力体制も大切になります。

特に、人口減少や高齢化などで地域における文化財の保護が難しくなる状況において、多様な主体の連携や支援などが、益々重要になります。

第2章 文化財の保存・活用の基本理念と基本的方針

第1節 文化財の保存・活用の基本理念

歴史文化基本構想は、「地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想」とされているとともに、文化財行政とまちづくり行政の連携が求められており、歴史文化を生かしたまちづくりの視点が重要です。

歴史文化を生かしたまちづくりの理念としては、

○地域のアイデンティティの確保及びその^{きずな}絆の維持

○人々の生活の中での文化財の保存及びその根底にある知と技の継承が掲げられています（「文化財の保護とまちづくり」文化庁文化財部）。

また、文化財の保存・活用は、行政だけで対応できるものではなく、所有者や市民、事業者など、地域ぐるみで取り組むことが重要であり、そのためには、市民等に関心をもってもらい、理解していただける簡潔な考え方・言葉を提示することが求められます。

このため、文化財の保存・活用の基本理念を、歴史文化基本構想の考え方(定義)、歴史文化を生かしたまちづくり及び出雲市の歴史文化の特色を生かしたフレーズづくりの視点を基本に設定します。

【出雲市における文化財の保存・活用の基本理念】

『神話と風土記の世界が今に息づく出雲』

～その歴史文化を地域で守り、生かし、未来へ伝える～

第2節 文化財の保存・活用の基本的方針

文化財の保存・活用の基本理念を、具体的な取組として実施・展開していくため、歴史文化基本構想の考え方や歴史文化を生かしたまちづくりの視点を踏まえながら、基本的方針を設定します。

■市民一人ひとりが地域に存在する文化財(歴史文化)に、地域ならではの価値を再発見・再認識し、大切にする

キーワード：市民、再発見、文化財(有形・無形、指定・未指定)

地域に存在する有形・無形、指定・未指定などの文化財を再発見・再評価し、守り、生かすためには、市民、とりわけその地域で暮らす人々の文化財に対する理解や保存・活用への協力・参加が重要になります。

このため、市民一人ひとりが地域に存在する文化財(歴史文化)への関心や愛着が持てるよう、情報提供や意識啓発などに取り組むとともに、市民・地域活動団体等による文化財の保存・活用の取組の支援、さらには行政との協働の取組の展開に努めます。

■関連する文化財をつなぎ、出雲ならではの歴史文化の価値や魅力を高める

キーワード：つなぐ(関連文化財群)

出雲市には、広く知られた出雲大社や出雲日御碕灯台をはじめ数多くの文化財がある一方で、あまり知られていない、生かされていない文化財もあります。また、歴史的・地理的に関係する文化財間においても、つながりを持った活用が十分にできているとはいえません。

このため、文化財の現況や価値などを把握し、関連する文化財を見だし、相互につなぐことで相乗効果を発揮させ、“個”としての魅力に“群”としての魅力も加え、出雲ならではの歴史文化の価値や魅力を高めます。

■周辺環境を含めて、文化財を守り、生かし、文化の薫り高い地域をつくる

キーワード：周辺環境(関連文化財群、歴史文化保存活用区域)

文化財そのものはしっかりと守られていても、その周辺環境が文化財と異質な状況であったり、公開されているのに案内・誘導の仕組みがなく場所が分かりにくかったりすると、“もったいない、おいしい、残念”ということになります。

このため、市民・地域活動団体等と連携しながら、周辺環境を含めて文化財を守り、生かし、文化の薫り高い地域づくりを進めます。特に、活用できる文化財が数多くある区域、また、関連する文化財やそれらをつなぐルートでは、面的、相關的、文化的な環境づくりを目指します。

■文化財を生かした多様な活動・交流のある地域をつくる

キーワード：交流(地域内、地域間、世代間、広域的・国際的)

前記のように、地域に存在する文化財を守り、生かすためには、市民・地域活動団体等の力が不可欠です。また、文化財は、地域への愛着や誇りの醸成、魅力づくり、観光交流の資源など、多様な役割や可能性を持っています。

このため、各地域において、又は地域を越えたテーマ等を通じて、市民・地域活動団体

等が参加・連携して取り組む、文化財を生かした個性ある交流や出会いの生まれる地域づくりを支援します。

■行政分野の連携及び協働のまちづくりを進める

キーワード：連携(文化財行政と他の行政分野)、協働

出雲市(行政)において文化財の保存・活用、とりわけ活用に関しては、文化財サイドだけでなく、教育、観光、コミュニティ、景観、都市計画、建設など多分野にわたるテーマとなっており、主要事業として出雲シティセールス事業(出雲歴史文化遺産魅力発信)も進めています。

このため、行政においては、文化財、学校教育・生涯学習、観光、コミュニティ、都市計画、建設などの部門が連携して、文化財を生かした地域づくり・まちづくり、シティセールス、人づくりなどに取り組みます。また、文化財を生かした地域づくり・まちづくりにおいては、前述のように市民・地域活動団体等の理解と協力、参加を得るとともに、協働(市民・地域活動団体、事業者、行政など)の取組の展開に努めます。